

## IV. 教育内容、学習成果

### 1. 学部教育理念・目的・目標・方針、修得すべき知識及び能力、カリキュラム体系・特色

#### (1) 薬学部(薬学科)

薬学部は、本学の建学の理念、教育理念に基づいた行動指針を設定し、質の高い専門職業人の養成を目的として2006年度から6年一貫教育体制となった。2013年度から新たな取組として、学生の自主的・自律的な学習態度を養い、学習意欲の向上を図ることを目的に、学生全員を対象とする「自己評価表(ポートフォリオ)」を導入し、2014年度からwebによる運用を開始した。2015年度より、新たな薬学教育改訂モデルコアカリキュラムに基づいて新カリキュラムが施行されている。2016年度には薬学教育評価機構の審査を受け、本学部の6年制教育内容等について適合評価を受けた。

#### 薬学部 教育理念

本学の教育理念を基本として、薬と医療にかかわる総合的な科学技術教育を推進することにより、人々の健康を守り、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することを薬学部薬学科の教育理念とする。

#### ①薬と医療にかかわる総合的な科学技術教育を推進する

薬学は、新薬の開発・製造をはじめ、医療現場での薬の調剤や服薬の指導を行う医療人としての知識・技術・態度を修得する学問領域であり、これらを総合的に修得した「科学者としての薬剤師」を養成するための科学技術教育を推進する。

#### ②地域社会ならびに人類の幸福に貢献する

WHO(世界保健機構)及びFIP(国際薬学連合)は、「ファーマシューティカル・ケア」の概念を提唱している。すなわち、「患者の福利厚生を中心に置き、より効果的な薬物治療や薬事衛生に患者個人単位から地域社会単位まで幅広く薬剤師が積極的に貢献する」というものである。まさに、「地域社会ならびに人類の幸福に貢献する薬剤師」をひとつの理想像として描いている。高齢化社会を迎えて、地域医療や在宅医療に貢献する薬剤師等、薬剤師の活躍の場は大きく広がりがつある。このような社会の要請に応じて、「新しい薬剤師」をつくることも、薬学部の教育理念である。

#### 薬学部 教育目的

薬学部薬学科の教育理念に沿って、薬剤師としての社会的使命を正しく遂行し得るために必要な豊かな人間性、薬と医療にかかわる科学的知識、研究・実習を通じて体得した技能と問題解決能力を有する人材の養成を本学科の教育目的とする。

#### 薬学部 教育目標

薬学部薬学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 薬と医療に関する基礎および応用の科学ならびに技術の修得
2. 生命を尊重し、幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養
3. 薬剤師としての技能と問題解決能力の修得
4. 自主性、協調性および創造性の涵養
5. 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力の涵養

#### ①薬と医療に関する基礎および応用の科学ならびに技術の修得

新しい薬を開発・製造するため、また、薬の有効性(効果)や安全性(副作用)を調べるために最新の科学技術が要求される。これら最新の科学技術を有効に活用するためには、基礎的な科学技術を十分に修得しておく必要がある。したがって、薬学を学ぶためには、「基礎および応用の科学ならびに技術の修得」が必須の条件となる。

#### ②豊かな人間性の涵養

薬局や病院等、医療の現場で働く薬剤師には、特に、「豊かな人間性」が必要とされる。患者との対話(コミュニケーション)を通して、薬の専門家としての能力を最大限に発揮することができる。

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

薬学部薬学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。これらの要件には、薬剤師として社会で活躍するための基本的な10の資質\*の養成が含まれる。

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。
2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的および国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。
4. 卒業研究や実務実習を通じて、医療の進歩に対応できる柔軟性と、臨床における問題点を発見・解決する能力を有する。
5. 後進の育成に努め、かつ生涯にわたって常に学び続ける姿勢と意欲を有する。

\*: 薬剤師として求められる基本的な資質

① 薬剤師としての心構え ② 患者・生活者本位の視点 ③ コミュニケーション能力 ④ チーム医療への参画 ⑤ 基礎的な科学力 ⑥ 薬物療法における実践的能力 ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力 ⑧ 研究能力 ⑨ 自己研鑽 ⑩ 教育能力

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

薬学部薬学科の学位授与の方針に基づき、全学年を通して、薬学教育モデルコアカリキュラムに基づく教育・研究に加えて本学独自の教育課程を展開する。また、チーム医療の重要性を体験する教育プログラムなどを通して、本学で学んだアイデンティティが自覚できるプログラムを構築する。その教育課程の編成・実施の方針を以下に示す。

1. 高い倫理観と豊かな人間性をもつ薬剤師を養成するため、倫理や法規制度に関連する科目ならびにグループ討議を多用したコミュニケーション教育科目を配当する。
2. 薬学専門教育へ向けての基礎学力向上を目的とした教育プログラムを低学年において配当する。また、基礎薬学領域から社会薬学領域、衛生薬学領域、医療薬学領域へと順次段階を経て総合的に修得できるよう、専門教育科目を中心とした教育プログラムを展開する。
3. 医療系総合大学の利点を活かし、薬剤師を含めた医療従事者の職能を理解し、チーム医療の基礎となる全学部共同の教育科目を配当する。また、長期実務実習を配当し、4年次までに修得した知識・技能・態度を医療現場で実践して、地域的視点および国際的視野を持つ薬剤師として必要な基礎的・応用的能力を養成する。
4. 4年次から6年次にかけて、科学者としての薬剤師の能力を涵養するために、配属講座にて少人数制による総合薬学研究を行う。併せて、下級学年の学生の実験指導を通じて、後進の育成の重要性を体験する。
5. 科目の評価は、知識領域については主に試験、技能や態度についてはレポート・チェックリスト・ルーブリック等を用いて実施する。薬学実務実習についてはルーブリックをもとに形成的評価を継続的に行い、指導薬剤師および実務家教員による総合評価を行う。卒業研究は、配属講座教員による形成的評価、卒業研究論文および発表会の内容についてルーブリック等を用いて評価する。
6. 6年間の統合された学修評価は、1年次から担任との面談(年2回)によって作成されている学生カルテや自己評価シートを用いて、配属講座担当教員との面談によって到達度を評価する。

#### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

薬学部薬学科では、学位授与の方針の要件を修得し、チーム医療を始め地域社会や国際社会に貢献できる自立した薬剤師を養成することを目標としています。そのため、本学科では学位授与の方針の要件を、より効果的に達成しうる資質を持った以下のような人材を広く求めます。

1. 保健・医療・福祉活動を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
3. 薬学を学ぶ基礎学力\*を有し、高い学習意欲のある人
4. 主体性を持って様々な人々と協同して学ぶ意欲のある人
5. 他の医療スタッフと協働し、薬剤師として活躍したいという強い意志を持っている人

**6. 薬学分野の様々なことに強い好奇心と探求心を持ち、最新の知識・技術を常に学び続けようとする人**

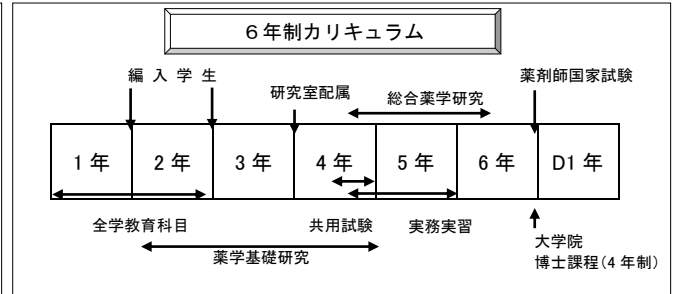
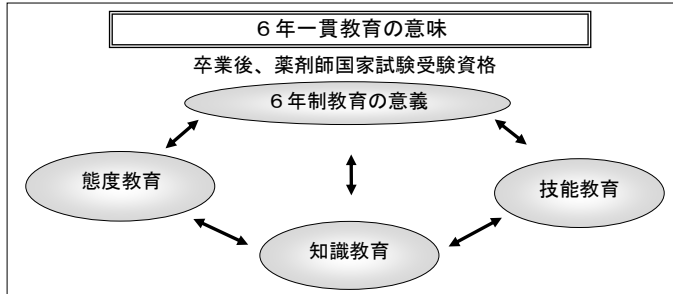
**\*基礎学力について**

薬学部薬学科では、入学後、専門科目の基礎として、医薬品の定量的な扱いのための化学計算、物性の理解のための物理化学、医薬品が作用する生体の働きを理解するための有機化学・生化学などの科目があります。また、世界共通の効果作用を持つ医薬品の理解には英語、そして実験実習には英語論文の理解が必要です。すなわち、高校で学習した数学、英語、化学、生物、物理などの知識や考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながります。ここに示す「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。

**薬学部学生が修得すべき知識及び能力**

1. 生命の尊重を基本とした他者に対する深い愛情と豊かな人間性
2. 最新の医療分野の進展を理解し、それを遂行できる薬学の基本的知識・技術
3. 医薬品に関する基礎および応用の科学的知識
4. チーム医療を担う一員として、他のスタッフと協調して医療に貢献できる態度と技能
5. 国際的および地域的視野を有する医薬品の専門家として活躍できる能力
6. 薬剤師として保健・医療分野における社会的使命を遂行しうる能力

**◆カリキュラムの特色**



**●薬学科カリキュラムの特色**

**①教科内容の系統化:**

基礎薬学系科目(準備教育を含む)、医療薬学系科目、社会薬学系科目に分類し、各系内および各系間の系統的関連性を明確化することにより、科目の位置付けが学修者にとってわかりやすい配置にしている。

**②補正教育と教養科目の充実:**

高校のカリキュラムの多様性に対応し、特に、化学・生物・物理に関する補正教育科目を1年次前期に配当している。さらには、2~4年次には理解の到達度が十分でない学生に対応する特別演習科目を配当し、少数制で十分な到達度が得られるよう対応している。医療人として幅広い教養を身につけるため、教養科目を重視し、英語科目は4年間必修とし、また、人文・社会科学系教養科目を選択科目(9科目中3科目を必修)として配当している。

**③全学教育科目による医療系総合大学としての教育:**

薬学部のみならず、全学の教育理念をふまえて、幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養、大学での学ぶ力や専門性を支え、地域社会ならびに国際社会で活躍する総合的人間力を身につける基盤として「全学教育科目」を配置している。特に1年次前期には全学部共通する総合科目として「多職種連携入門」(必修)を配当している。

**④モチベーションを高め自律的な学修態度を養う教育:**

膨大な授業科目の位置付けを理解し、自分自身の薬剤師像を明確にし、目的を持って学修するために、1年次に「早期体験学習」(必修)を授業科目として配置している。本科目では、病院、保険薬局、製薬会社等を訪問して、医療現場における薬剤師の役割を認識するとともに、実際に体験学習したことを通じ、モチベーションを高めている。また、「基礎薬学概論」、「医療薬学概論」をそれぞれ1年次に開講し、6年一貫教育における各授業科目の位置付けや、学修の仕方、態度等を学ぶことができるようにしている。

また、学生は、入学から卒業までの6年間、自分自身の学修目標等に関する「自己評価表(ポートフォリオ)」を作成する。これは、各年度・学期初めに担当教員との面談を通じて、①前年度の目標達成度・成果、②前年度の反省と今後の活かし方、③今年度(前期・後期)の目標と目標達成への取組の各項目について記載するもので、学生が自身の学修を見つめ直すことにより、自主的・自律的な学修態度を養うとともに学修意欲の向上を図っている。

**⑤専門科目の系統化・科目間の連携強化・先端医療に関する科目:**

モデル・コアカリキュラムを網羅し、かつますます高度化する医療に対応するための専門科目を多数配当している。基礎薬学系科目は学年の進行に伴い、段階的に理解度が高まるよう科目の開講時期を調整し、科目間の連携を充実させたほか、5~6年次にゲノム創薬に対応する実践的な知識を身につけられるようにしている。医療薬学系科目では従来の基礎的科目に加え、先端医療に対応する科目を新設したほか、医療従事者(医師、薬剤師)を招聘し、現場に即した実践的な知識の修得や演習等により総合的に学修することができる。また先端医療に関するより実務的な学修を目的とした科目も5~6年次に配当している。

**⑥社会薬学系科目の充実:**

地域医療・福祉に係る薬剤師の役割に関して理解を深めることを目的とし、社会薬学系科目を充実させている。また、医療の高度化に伴う医療人としての倫理、患者や医療スタッフとの円滑なコミュニケーションをとるために必要な知識・態度・技能を身につける科目を配当している。また、5~6年次には、社会情勢の変化に適宜対応できることを目的とした科目を配当している。

**⑦実務実習関連科目への対応:**

6年制教育で重視される実務実習(病院実習・薬局実習)の学修効果を高めるため、対応する事前学修科目を充実させている。従来から開講している学生実習に加え、事前実習では、病院薬局や保険薬局とほぼ同様の設備の模擬薬局を使用し、臨場感のある実務系実習を行う。また、4年次にはその前段階として、コミュニケーションや態度教育を主目的とした実習、実務実習に必要な基礎的知識の確認と応用を主目的とした実習を実施することにより、4年次までに学修した基礎的知識を活用できるよう、演習や実習形式で学ぶ科目を配当している。

**⑧科学者としての薬剤師教育:**

薬剤師は、化学物質としての医薬品の適正使用に関するエキスパートであり、医薬品に関する情報・取扱い・服薬に関する指導等に関して、科学的な観点から情報提供を行う立場にある。薬剤師として適切な情報提供ができるよう、学生実習(基礎薬学、衛生薬学、医療薬学系実習)に加えて、2年次から自由選択科目として基礎的な研究を行う科目を設け、各講座で実験研究を体験し、科学的なものの方見方、態度、グループ作業による協調性等の科学者として必要な態度が身につけられるようにしている。また、4年次には研究室に配属され、4年次から総合薬学研究(卒業研究)を通して薬剤師として必要な知識・技能・態度を総合的に修得できるようにしている。

**⑨実務実習:**

実務実習は病院と薬局をあわせて5か月間、5年次に全員が北海道内の施設において実施している。その間、本学教員が巡回指導を行い、実習内容の把握・調整、受入施設の担当指導薬剤師との意見交換等を行うほか、本学実務実習専用サイト「実務実習支援システム」を通じた日常的な実習進捗状況管理により円滑な実習の実施に努めている。

**⑩新カリキュラムにおける変更点:**

平成18年度より導入された本学6年制カリキュラムは、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に伴い平成27年度入学生より改訂されている。新カリキュラムにおいても上記①~⑨の特色は継承しつつ、さらに「地域医療・福祉の理解と実践」や「国際的視野の涵養」を指向した本学独自の選択科目を1年次から6年次まで履修可能な形で配当している。また、4年次や6年次にはアドバンス教育科目を充実させ、学生のニーズに合わせて選択可能な多様なカリキュラムを提供している。

⑪薬学部カリキュラム (2019年度第1学年に適用)

薬学部薬学科教育科目

※担当については、2019年度第1学年開講科目のみ記載

全学教育科目

種類	科目区分	授業科目	授業題目	担当	単位数 必修 選択	開講年次・時間数												備考	
						1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎教育	導入科目	文章指導	文章指導	二瓶 ほか	2														
		教養科目	人間と思想	哲学入門	森元	2	30												
	生命倫理学入門			磯部	2	30													
	心理学		安部	2		30													
	人間と文化		日本の小説	井上(貴)	2		30												
			医療社会史	千葉(芳)	2		30												
	人間と社会		医療の人類学	花岡	2			30											
		対人関係論入門	薄井	2	30														
	外国語科目	英語 I	英語コミュニケーションA	足利 ほか	1	30													
			英語コミュニケーションB	-	1			30											
基礎教育	健康・運動科学科目	英語 II	英語A	足利 ほか	1		30												
			英語B	鎌田 ほか	1			30											
		初修外国語	初級ドイツ語	阿部	1	30													
	自然科学科目	情報科学科目	運動科学演習	森田 ほか	1	30													
			運動科学演習 II	森田 ほか	1	30													
		物理数学	情報科学	二瓶 ほか	2		30												
			物理数学 I	長谷川 ほか	2	30													
		化学	物理数学 II	原田	2	30													
			基礎無機化学	鈴木(-)	1	20													
			有機化学入門	鈴木(-)	1	20													
			基礎物理化学 I	鈴木(-)	1		20												
			基礎物理化学 II	鈴木(-)	1		20												
		生物学	生物学	近藤	2	30													
			基礎生理学	新岡	2	30													
		自然科学入門	基礎化学演習 I	鈴木(-) ほか	1	30													
基礎化学演習 II	鈴木(-) ほか		1	30															
基礎生物学演習	新岡 ほか		1	30															
基礎物理化学演習	長谷川 ほか		1	30															
自然科学実験	自然科学実習	鈴木(-) ほか	3	135															
地域連携	早期体験学習	二瓶 ほか	2	30															
	メディアカルカフェをつくる	*開講なし	[2]					30											
	医療倫理	中山	2		30														
多職種連携	多職種連携入門	櫻田 ほか	2	30															

・全学教育科目 36単位以上修得(必修28単位、選択8単位)

・単位数欄が[ ]の科目は、自由選択科目を示し、卒業単位に含まない。

・授業科目について配当単位の記載が複数ある場合は、複数の授業題目により行われることを示し、それぞれの授業題目を一つの授業科目として履修することができる。

専門教育科目

1 必修科目 その1

系	授業科目	担当	単位数 必修 選択	開講年次・時間数												備考	
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学基礎	物理	分析化学 I	村井	1		20											
		分析化学 II	村井	2			30										
		無機薬化学	北浦	1		20											
		物理化学 I	吉村	2		30											
		物理化学 II	吉村	2				30									
	化学	機器分析学	佐藤	2					30								
		放射薬品学	北浦	2						30							
		薬用植物学	高上馬 ほか	1		20											
		基礎有機化学	小田	1		20											
		生薬学	高上馬	1		20											
		有機薬化学 I	小田(和)	2			30										
		有機薬化学 II	西園	2				30									
		有機化学演習	山田	1				30									
		有機薬化学 III	西園	2					30								
		生体分子の化学	西	1						20							
医薬品化学	阿部	1							20								
生物	解剖生理学 I	泉 ほか	1	20													
	解剖生理学 II	飯塚 ほか	1		20												
	解剖生理学 III	大橋 ほか	1			20											
	基礎生化学	青木 ほか	1		20												
	微生物学	岡崎	1			20											
	臨床微生物学	岡崎	1				20										
	代謝生化学	青木 ほか	1				20										
	分子細胞生物学	青木 ほか	2					30									
	免疫学	岡崎 ほか	2						30								
	衛生薬学	衛生	環境衛生学	小島	2			30									
公衆衛生学			寺崎	2				30									
衛生化学			小林(大)	1				20									
毒性学			小島	1					20								
食品衛生学			和田	2						30							
毒性影響と評価			小林(大) ほか	1							20						
病理生理総論			飯塚 ほか	1		20											
医療薬学	薬理/病態/薬物治療	薬理学総論	町田 ほか	1		20											
		診断学	飯塚 ほか	1			20										
		薬物療法学 I	町田	1		20											
		薬物療法学 II	泉	1				20									
		薬物療法学 III	町田 ほか	1				20									
		薬物療法学 IV	柳川 ほか	1					20								
		薬物療法学 V	遠藤(泰) ほか	1						20							
		薬物療法学 VI	飯塚 ほか	1							20						
		薬物療法学 VII	大橋 ほか	1								20					
		薬物療法学 VIII	遠藤(泰) ほか	1									20				
	医薬品安全	泉 ほか	1										20				
	薬剤	臨床検査医学	飯塚 ほか	1										20			
		製剤学	柴山 ほか	1		20											
		製剤工学	柴山 ほか	2				30									
		生物薬剤学 I	齊藤	2					30								
生物薬剤学 II		齊藤	1						20								
薬物速度論	伊藤	1							20								
薬物送達学	小田(雅)	1								20							
臨床薬物動態学	小林(道) ほか	2									30						

専門教育科目

1 必修科目 その2

系	授業科目	担当	単位数	開講年次・時間数												備考		
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
実務薬学 / 社会薬学 / 他	実務薬学入門	櫻田 ほか	1															
	医薬品情報学	小林(道) ほか	1															
	実務薬学Ⅰ	平野 ほか	2															
	実務薬学Ⅱ	櫻田 ほか	2															
	地域医療学	吉田 ほか	2															
	薬剤疫学	小林(道)	1															
	社会薬学Ⅰ	久保 ほか	1															
	社会薬学Ⅱ	久保 ほか	1															
	基礎薬学概論	青木 ほか	1	20														
	医療薬学概論	小林 ほか	1		20													
統合演習	薬学英語Ⅰ	足利 ほか	1															
	薬学英語Ⅱ	各研究室	1															
	実務実習前実践演習Ⅰ	基礎薬学系	2															
	実務実習前実践演習Ⅱ	医療薬学系	2															
	実務実習前実践演習Ⅲ	社会薬学系	2															
	基礎薬学複合演習Ⅰ*	-	1														30	
	基礎薬学複合演習Ⅱ*	-	1														30	
	基礎薬学複合演習Ⅲ*	-	1														30	
	衛生薬学複合演習*	-	1														30	
	医療薬学複合演習Ⅰ*	-	1														30	
医療薬学複合演習Ⅱ*	-	1														30		
実務社会薬学複合演習*	-	1														30		
総合	基礎薬学総合演習	-	3														90	
	衛生薬学総合演習	-	2														60	
	医療薬学総合演習Ⅰ	-	3														90	
	医療薬学総合演習Ⅱ	-	2														60	
	実務社会薬学総合演習	-	3														90	
	実務	基礎薬学Ⅰ実習	吉村 ほか	2														
基本	基礎薬学Ⅱ実習	小田(和) ほか	2														90	
	衛生薬学実習	和田 ほか	2														90	
	基礎薬学Ⅲ実習	岡崎 ほか	2														90	
	医療薬学Ⅰ実習	飯塚 ほか	2														90	
	医療薬学Ⅱ実習	柴山 ほか	2														90	
	医療薬学Ⅲ実習	平野 ほか	4														180	
	実務実習(病院)	平野 ほか	10														450	
	実務実習(薬局)	平野 ほか	10														450	
	研究	総合薬学研究	各研究室	10														450

2 選択科目

系	授業科目	担当	単位数	開講年次・時間数												備考	
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎選択	医療推計学	小林(道) ほか	1														
	有機構造分析学	山田	1														20
	局方試験法	佐藤 ほか	1														20
	生体機能診断学	吉村 ほか	1														20
	臨床薬理学	泉 ほか	1														20
	遺伝子工学	岡崎	1														20
	漢方薬学概論	堀田	1														20
	薬学特別演習Ⅰ	小田(和) ほか	1														30
	薬学特別演習Ⅱ	西園 ほか	1														30
	薬学特別演習Ⅲ	木村(真) ほか	1														30
専門選択科目	薬学特別演習Ⅳ	村井 ほか	1														30
	医療福祉活動演習(コミュニケーション)	齊藤	1														30
	医療福祉活動演習(福祉)	木村(真) ほか	1														30
	医療福祉活動演習(在宅)	浜上 ほか	1														30
	グローバルコミュニケーションⅠ	村井 ほか	1														30
	グローバルコミュニケーションⅡ	村井 ほか	1														30
	薬学基礎研究Ⅰ	全教員	[1]														30
	薬学基礎研究Ⅱ	全教員	[1]														30
	薬学基礎研究Ⅲ	全教員	[1]														30
	アドバンスト選択	応用有機化学特論*	山田 ほか	1													
応用物理化学特論*		吉村 ほか	1														20
応用生物学特論*		大澤 ほか	1														20
応用衛生学特論*		寺崎 ほか	1														20
臨床栄養学*		-	1														20
臨床画像解析学*		-	1														20
処方解析演習*		-	1														30
看護実践学*		-	1														20
フィジカルアセスメント*		-	1														20
レギュラトリーサイエンス*		-	1														20
ヘルスエコノミクス*	-	1														20	

- ・専門教育科目164単位以上修得
- ・単位数欄が[ ]の科目は、卒業単位に含まない。
- ・\*は、アドバンスト教育科目を示す。
- ・全学教育科目及び専門教育科目を総計200単位以上修得  
(必修136単位、選択18単位、基本実習16単位、実務実習20単位、総合薬学研究10単位)

⑫薬学部カリキュラム(2019年度第2・3・4・5学年に適用)

薬学部薬学科教育科目

※担当については、2019年度第2・3・4・5学年開講科目のみ記載

全学教育科目

種類	科目区分	授業科目	授業題目	担当	単位数 必修 選択	開講年次・時間数												備考	
						1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養教育	導入科目	基礎ゼミナール	自然科学総合	-	2		30										1科目 2単位 修得		
		文章指導	人文・社会科学総合	-	2		30												
	教養科目	人間と思想	哲学入門	哲学入門	-	2		30										3科目 6単位 修得	
			生命倫理学入門	生命倫理学入門	-	2		30											
			心理学	心理学	安部	2			30										
		人間と文化	日本の小説	日本の小説	井上(貴)	2			30										
			医療社会史	医療社会史	千葉(芳)	2			30										
			医療の人類学	医療の人類学	花濤	2				30									
		人間と社会	対人関係論入門	対人関係論入門	-	2			30										
医療の法学			医療の法学	-	2			30											
医療の経済学			医療の経済学	櫻井	2				30										
基礎教育	外国語科目	英語 I	オーラル・イングリッシュA	-	1		30												
		英語 I	オーラル・イングリッシュB	ターフ ほか	1			30											
		英語 II	英語A	-	1			30											
		英語 II	英語B	鎌田 ほか	1				30										
		フランス語	初級フランス語	-	1			30											
	自然科学科目	フランス語	中級フランス語	-	1			30											
		ドイツ語	初級ドイツ語	-	1			30											
			中級ドイツ語	阿部	1				30										
		健康・運動科学科目	運動科学演習	運動科学演習 I	-	1		30											
			運動科学演習	運動科学演習 II	-	1			30										
		情報科学科目	情報科学	情報科学	-	2			30										
		数学	数学	数学	-	2		30											
			物理学	物理学	-	2		30											
			化学	化学	化学通論 I	-	2		30										
				化学	化学通論 II	-	2			30									
			生物学	生物学	生物学	-	2		30										
				基礎生理学	基礎生理学	-	2			30									
				自然科学入門	基礎化学演習 I	-	1		30										
					基礎化学演習 II	-	1			30									
				基礎生物学演習	-	1		30											
基礎物理学演習	-			1		30													
自然科学実験	自然科学実験	-		3			135												
盤医療教育基	医療基盤科目	個体差健康科学		個体差健康科学・多職種連携入門	-	2		30											
		地域連携	早期体験学習	-	2		30												
			メディカルカフェをつくる	*開講なし		[2]			30		30								
		医療倫理	医療倫理学	中山	2				30										

・全学教育科目 38単位以上修得(必修28単位、選択10単位)  
 ・単位数欄が[ ]の科目は、自由選択科目を示し、卒業単位に含まない。  
 ・授業科目について配当単位の記載が複数ある場合は、複数の授業題目により行われることを示し、それぞれの授業題目を一つの授業科目として履修することができる。

専門教育科目  
1 必修科目 その1

系	授業科目	担当	単位数 必修 選択	開講年次・時間数												備考
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
薬学基礎	物理	分析化学 I	-	1		20										
		分析化学 II	村井	2			30									
		無機薬化学	北浦	1			20									
		物理化学 I	吉村	2			30									
		物理化学 II	吉村	2				30								
		機器分析学	佐藤	2					30							
		放射線薬学	北浦	2						30						
	化学	薬用植物学	-	1		20										
		基礎有機化学	-	1		20										
		生薬学	高上馬	1			20									
		有機薬化学 I	小田(和)	2			30									
		有機薬化学 II	西園	2				30								
		有機化学演習	山田	1				30								
		有機薬化学 III	西園	2					30							
		生体分子の化学	西	1					20							
		医薬品化学	阿部	1						20						
		解剖生理学 I	-	1		20										
生物	解剖生理学 II	-	1		20											
	解剖生理学 III	大橋 ほか	1			20										
	基礎生化学	青木 ほか	1			20										
	微生物学	岡崎	1			20										
	臨床微生物学	岡崎	1				20									
	代謝生化学	青木 ほか	1				20									
	分子細胞生物学	青木 ほか	2					30								
	免疫学	岡崎 ほか	2						30							
衛生薬学	衛生	環境衛生学	小島	2			30									
		公衆衛生学	寺崎	2				30								
		衛生化学	小林(大)	1				20								
		毒性学	小島	1				20								
		食品衛生学	和田	2					30							
		毒性影響と評価	小林(大) ほか	1						20						
医療薬学	薬理／ 病態／ 薬物治療	病態生理総論	飯塚 ほか	1			20									
		薬理学総論	町田 ほか	1			20									
		診断学	飯塚 ほか	1				20								
		薬物療法学 I	町田	1				20								
		薬物療法学 II	泉	1					20							
		薬物療法学 III	町田 ほか	1					20							
		薬物療法学 IV	柳川 ほか	1					20							
		薬物療法学 V	遠藤(泰) ほか	1					20							
		薬物療法学 VI	飯塚 ほか	1						20						
		薬物療法学 VII	大橋 ほか	1						20						
		薬物療法学 VIII	遠藤(泰) ほか	1						20						
		医薬品安全	泉 ほか	1							20					
		臨床検査医学	飯塚 ほか	1								20				
		薬剤	製剤学	柴山 ほか	1			20								
			製剤工学	柴山 ほか	2				30							
			生物薬剤学 I	齊藤	2					30						
			生物薬剤学 II	齊藤	1						20					
	薬物速度論		伊藤	1							20					
	薬物送達学		小田(雅)	1								20				
	臨床薬物動態学		小林(道) ほか	2									30			

専門教育科目  
1 必修科目 その2

系	授業科目	担当	単位数	開講年次・時間数												備考		
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
実務薬学 / 社会薬学 / 他	実務	実務薬学入門	櫻田 ほか	1					20									
		医薬品情報学	小林(道) ほか	1					20									
		実務薬学 I	平野 ほか	2							30							
	法制	実務薬学 II	櫻田 ほか	2								30						
		地域医療学	吉田 ほか	2									30					
		薬剤疫学	小林(道)	1									20					
	その他	社会薬学 I	久保 ほか	1									20					
		社会薬学 II	久保 ほか	1									20					
		基礎薬学概論	-	1		20												
		医療薬学概論	-	1			20											
		薬学英語 I	足利 ほか	1							30							
		薬学英語 II	-	1										30				
	統合演習	実践	実務実習前実践演習 I	基礎薬学系	2									60				
実務実習前実践演習 II			医療薬学系	2										60				
実務実習前実践演習 III			社会薬学系	2										60				
複合		基礎薬学複合演習 I*	-	1													30	
		基礎薬学複合演習 II*	-	1													30	
		基礎薬学複合演習 III*	-	1													30	
		衛生薬学複合演習*	-	1													30	
		医療薬学複合演習 I*	-	1													30	
		医療薬学複合演習 II*	-	1													30	
総合		実務社会薬学複合演習*	-	1													30	
		基礎薬学総合演習	-	3														90
		衛生薬学総合演習	-	2														60
		医療薬学総合演習 I	-	3														90
		医療薬学総合演習 II	-	2														60
		実務社会薬学総合演習	-	3														90
実習	基本	基礎薬学 I 実習	吉村 ほか	2					90									
		基礎薬学 II 実習	小田(和) ほか	2					90									
		衛生薬学実習	和田 ほか	2						90								
		基礎薬学 III 実習	岡崎 ほか	2							90							
		医療薬学 I 実習	飯塚 ほか	2								90						
		医療薬学 II 実習	柴山 ほか	2									90					
	実務	医療薬学 III 実習	平野 ほか	4										180				
		実務実習(病院)	平野 ほか	10											450			
		実務実習(薬局)	平野 ほか	10											450			
		研究	総合薬学研究	各研究室	10												450	

2 選択科目

系	授業科目	担当	単位数	開講年次・時間数												備考		
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎選択	医療推計学	小林(道) ほか	1					20										
	有機構造分析学	山田	1						20									
	局方試験法	佐藤 ほか	1						20									
	生体機能診断学	吉村 ほか	1							20								
	臨床薬理学	泉 ほか	1								20							
	遺伝子工学	岡崎	1									20						
	漢方薬学概論	堀田	1										20					
	専門選択科目	薬学特別演習 I	小田(和) ほか	1			30											
		薬学特別演習 II	西園 ほか	1				30										
		薬学特別演習 III	木村(真) ほか	1					30									
薬学特別演習 IV		村井 ほか	1								30							
医療福祉活動演習(コミュニケーション)		齋藤	1									30						
医療福祉活動演習(福祉)		木村(真) ほか	1										30					
医療福祉活動演習(在宅)		浜上 ほか	1											30				
グローバルコミュニケーション I		村井 ほか	1												30			
グローバルコミュニケーション II		村井 ほか	1													30		
薬学基礎研究 I		全教員	[1]				30											
薬学基礎研究 II	全教員	[1]					30											
薬学基礎研究 III	全教員	[1]						30										
アドバンス選択	応用有機化学特論*	山田 ほか	1										20					
	応用物理化学特論*	吉村 ほか	1											20				
	応用生物化学特論*	大澤 ほか	1												20			
	応用衛生学特論*	寺崎 ほか	1													20		
	臨床栄養学*	-	1													20		
	臨床画像解析学*	-	1													20		
	処方解析演習*	-	1													30		
	看護実践学*	-	1													20		
	フィンガルフアーズメント*	-	1													20		
	レギュラトリーサイエンス*	-	1													20		
ヘルスエコノミクス*	-	1													20			

- ・ 専門教育科目164単位以上修得
- ・ 単位数欄が[ ]の科目は、卒業単位に含まない。
- ・ \* は、アドバンス教育科目を示す。
- ・ 全学教育科目及び専門教育科目を総計202単位以上修得  
(必修136単位、選択20単位、基本実習16単位、実務実習20単位、総合薬学研究10単位)



専門教育科目 その2

授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考	
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学英語Ⅱ	-	1							30								
生理化学	-	1.5						30									
病理学	-	1.5						30									
病態生理学Ⅰ	-	1						20									
病態生理学Ⅱ	-	1						20									
臨床医学概論Ⅰ	-	1					20										
臨床医学概論Ⅱ	-	1					20										
薬理学Ⅰ	-	1.5					30										
薬理学Ⅱ	-	1.5					30										
臨床薬理学Ⅰ	-	1						20									
臨床薬理学Ⅱ	-	1							20								
薬物療法学	-	1							20								
薬物治療学入門	-	1				20											
毒理学	-	1							20								
生物薬剤学	-	1.5						30									
薬物動態学	-	1.5						30									
物理薬剤学	-	1.5					30										
分子生物薬剤学	-		1								20						
調剤学Ⅰ	-	1.5								30							
調剤学Ⅱ	-	1.5								30							
製剤学	-	1.5							30								
製剤設計学	-	1								20							
医療薬学概論	-	1		20													
薬物代謝学	-	1.5						30									
薬剤疫学	-		1							20							
医薬品情報学	-		1							20							
臨床診断学	-	1								20							
実務実習前特別演習Ⅲ	-	1								30							
実務実習前特別演習Ⅳ	-	2								60							
臨床薬物動態学	-	1								20							
医療薬学特論Ⅰ	遠藤(泰) ほか	1													20		
医療薬学特論Ⅱ	飯塚 ほか		1												20		
医療薬学特論Ⅲ	泉 ほか	1													20		
医療薬学特論Ⅳ	小林 ほか	1													20		
医療薬学特論Ⅴ	平野 ほか	1													20		
医療薬学総合講義Ⅰ	遠藤(泰) ほか	4															80
医療薬学総合講義Ⅱ	齊藤 ほか	4															80
薬学特別演習Ⅳ	-		1						30								
実務実習前特別実習Ⅱ	-	1								45							
実務実習前特別実習Ⅲ	-	2								90							
医療薬学Ⅰ実習	-	2								90							
医療薬学Ⅱ実習	-	2								90							
医療薬学Ⅲ実習	-	3									135						
実務実習(病院)	-	10										450					
実務実習(薬局)	-	10										450					
医療人間学	-		1					20									
薬事法制Ⅰ	-	1							20								
薬事法制Ⅱ	-		1							20							
社会薬学特論Ⅰ	寺崎 ほか	1												20			
社会薬学特論Ⅱ	和田 ほか	1												20			
薬局管理論	-		1							20							
公衆衛生学	-	1.5				30											
衛生化学	-	1.5					30										
食品衛生学	-	1.5						30									
環境衛生化学	-	1.5					30										
中毒学	-		1.5					30									
食品予防栄養学	-	1								20							
医療福祉論	-		1			20											
老人福祉論	-		1							20							
在宅ケア論	-	1									20						
医療コミュニケーション	-	1									20						
医療福祉活動演習	-		1					20									
地域福祉論	-		1						20								
社会薬学総合講義	和田 ほか	4															80
薬学特別演習Ⅲ	-		1						30								
衛生薬学実習	-	2							90								
実務実習前特別演習Ⅰ	-	2								60							
実務実習前特別演習Ⅱ	-	1								30							
実務実習前特別実習Ⅰ	-	1								45							
総合薬学研究	研究室教員	10												450			
薬学基礎研究Ⅰ	-		[1]				30										自由 選択 科目
薬学基礎研究Ⅱ	-		[1]					30									
薬学基礎研究Ⅲ	-		[1]							30							

・専門教育科目178単位以上修得(必修107.5単位、選択21.5単位、実習15.0単位、実務実習24.0単位、総合薬学研究10.0単位)

・単位数欄の[]の科目は、卒業単位に含まない。

全学教育科目及び専門教育科目を総計219単位以上履修(必修138.5単位、選択31.5単位、実習15.0単位、実務実習24.0単位、総合薬学研究10.0単位)



⑭薬学部カリキュラム<平成24年度入学生で2019年度第6学年の在学生在に適用>

薬学部薬学科教育科目

※担当については、2019年度第6学年開講科目のみ記載

全学教育科目

種類	科目区分	授業科目	授業題目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考	
							1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年			
							必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養教育	導入科目	基礎ゼミナール	基礎セミナー	-	2	30												1科目 2単位 修得		
		文章指導	基礎セミナー	-	2	30														
	教養科目	人間と思想	哲学入門	生命倫理学入門	-	2	30											3科目 6単位 修得		
			心理学	医療の人類学	-	2		30												
			人間と文化	日本の小説	医療社会学	-	2		30											
				医療の法学	医療の経済学	-	2		30											
		人間と社会	対人関係論入門		-	2	30													
			医療の法学		-	2	30													
		基礎教育	外国語科目	英語 I	オーラル・イングリッシュA	-	1	30												
				英語 II	英語A	-	1		30											
フランス語	初級フランス語			-	1		30													
ドイツ語	初級ドイツ語			-	1		30													
	中級ドイツ語			-	1		30													
健康・運動科学科目	運動科学演習			運動科学演習 I	-	1	30													
自然科学科目	情報科学科目		情報科学	情報科学	-	2		30												
	物理学		数学	数学	-	2	30													
			物理学	物理学	-	2	30													
			化学	化学通論 I	化学通論 I	-	2	30												
		化学通論 II		化学通論 II	-	2	30													
	生物学	生物学	生物学	-	2	30														
		基礎生理学 I	基礎生理学 I	-	2		30													
		基礎生理学 II	基礎生理学 II	-	2		30													
基礎化学		基礎化学	-	2	30															
自然科学入門	基礎生物学	基礎生物学	-	2	30															
	基礎物理学	基礎物理学	-	2	30															
自然科学実験	自然科学実験	自然科学実験	-	4	180															
医療教育基盤	医療基盤科目	個性健康科学	個性健康科学	-	2	30														
		地域連携	早期体験学習	早期体験学習	-	2	30													
			メディカルカフェをつくる I	メディカルカフェをつくる I	-	[2]		30												
		医療倫理	医療倫理	-	2		30													

・全学教育科目41単位以上修得(必修31単位、選択10単位)

・単位数欄が[ ]の科目は、卒業単位に含まない。

・授業科目について配当単位の記載が複数ある場合は、複数の授業題目により行われることを示し、それぞれの授業題目を一の授業科目として履修することができる。

専門教育科目 その1

授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年		
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
医療推計学	-	1								20						
薬学英語 I	-	1						30								
基礎薬学概論	-	1	20													
化学計算演習	-	1		30												
無機化学	-	1.5		30												
薬品物理化学 I	-	1.5		30												
薬品物理化学 II	-	1.5			30											
放射薬品学	-	1.5				30										
薬品分析化学 I	-	1.5		30												
薬品分析化学 II	-	1.5			30											
臨床分析学	-	1							20							
機器分析学	-	1.5				30										
有機構造分析学	-	1.5	1.5				30									
基礎薬学 I 実習	-	2					90									
基礎有機化学	-	1.5		30												
有機化学 I	-	1.5			30											
有機化学 II	-	1.5				30										
有機化学 III	-	1.5					30									
有機化学演習	-	1			30											
薬品合成化学	-	1.5						30								
医薬品化学 I	-	1.5							30							
医薬品化学 II	-	1								20						
生薬学 I	-	1.5					30									
生薬学 II	-	1.5				30										
植物薬品化学	-	1	1						20							
基礎薬学 II 実習	-	1					90									
薬用植物学	-	1.5	30													
基礎生化学	-	1.5			30											
生化学 I	-	1.5				30										
生化学 II	-	1.5					30									
微生物学	-	1.5				30										
微生物化学	-	1					20									
免疫学	-	1.5						30								
基礎解剖学	-	1.5	30													
遺伝子工学	-	1							20							
漢方薬学概論	-	1								20						
薬局方概論	-	1					20									
薬品試験法	-	1.5							30							
薬科学特論 I	高上馬 ほか	1													20	
薬科学特論 II	小田(和) ほか	1													20	
薬科学特論 III	吉村 ほか	1													20	
薬科学特論 IV	吉村 ほか	1													20	
薬科学特論 V	青木 ほか	1													20	
薬科学特論 VI	青木 ほか	1													20	
基礎薬学総合講義	小田(和) ほか	4														80
基礎薬学 III 実習	-	2						90								
薬学特別演習 I	-	1			30											
薬学特別演習 II	-	1							30							

専門教育科目 その2

授業科目	担当	単位数		開 講 年 次 ・ 時 間 数												備考		
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学英語Ⅱ	-	1							30									
生理化学	-	1.5						30										
病理学	-	1.5						30										
病態生理学Ⅰ	-	1						20										
病態生理学Ⅱ	-	1						20										
臨床医学概論Ⅰ	-	1					20											
臨床医学概論Ⅱ	-	1					20											
薬理学Ⅰ	-	1.5					30											
薬理学Ⅱ	-	1.5					30											
臨床薬理学Ⅰ	-	1						20										
臨床薬理学Ⅱ	-	1							20									
薬物療法学	-	1							20									
薬物治療学入門	-	1				20												
毒理学	-	1							20									
生物薬剤学	-	1.5						30										
薬物動態学	-	1.5						30										
物理薬剤学	-	1.5					30											
分子生物薬剤学	-		1								20							
調剤学Ⅰ	-	1.5								30								
調剤学Ⅱ	-	1.5								30								
製剤学	-	1.5							30									
製剤設計学	-	1								20								
医療薬学概論	-	1		20														
薬物代謝学	-	1.5						30										
薬剤疫学	-		1								20							
医薬品情報学	-		1								20							
臨床診断学	-	1									20							
実務実習前特別演習Ⅲ	-	1									30							
実務実習前特別演習Ⅳ	-	2									60							
臨床薬物動態学	-	1									20							
医療薬学特論Ⅰ	遠藤(泰) ほか	1														20		
医療薬学特論Ⅱ	飯塚 ほか		1													20		
医療薬学特論Ⅲ	泉 ほか	1														20		
医療薬学特論Ⅳ	小林 ほか	1														20		
医療薬学特論Ⅴ	平野 ほか	1														20		
医療薬学総合講義Ⅰ	遠藤(泰) ほか	4																80
医療薬学総合講義Ⅱ	齊藤 ほか	4																80
薬学特別演習Ⅳ	-		1							30								
実務実習前特別実習Ⅱ	-	1									45							
実務実習前特別実習Ⅲ	-	2									90							
医療薬学Ⅰ実習	-	2									90							
医療薬学Ⅱ実習	-	2									90							
医療薬学Ⅲ実習	-	3										135						
実務実習(病院)	-	10														450		
実務実習(薬局)	-	10														450		
医療人間学	-		1					20										
薬事法制Ⅰ	-	1								20								
薬事法制Ⅱ	-		1								20							
社会薬学特論Ⅰ	寺崎 ほか	1														20		
社会薬学特論Ⅱ	和田 ほか	1														20		
薬局管理論	-		1								20							
公衆衛生学	-	1.5				30												
衛生化学	-	1.5					30											
食品衛生学	-	1.5						30										
環境衛生化学	-	1.5					30											
中毒学	-		1.5					30										
食品予防栄養学	-	1									20							
医療福祉論	-		1			20												
老人福祉論	-		1								20							
在宅ケア論	-	1										20						
医療コミュニケーション	-	1										20						
医療福祉活動演習	-		1					20										
地域福祉論	-		1						20									
社会薬学総合講義	和田 ほか	4																80
薬学特別演習Ⅲ	-		1						30									
衛生薬学実習	-	2							90									
実務実習前特別演習Ⅰ	-	2									60							
実務実習前特別演習Ⅱ	-	1									30							
実務実習前特別実習Ⅰ	-	1									45							
総合薬学研究	研究室教員	10														450		
薬学基礎研究Ⅰ	-		[1]			30												自由 選択 科目
薬学基礎研究Ⅱ	-		[1]				30											
薬学基礎研究Ⅲ	-		[1]						30									

・専門教育科目178単位以上修得(必修107.5単位、選択21.5単位、実習15.0単位、実務実習24.0単位、総合薬学研究10.0単位)  
 ・単位数欄の[]の科目は、卒業単位に含まない。  
 全学教育科目及び専門教育科目を総計219単位以上履修(必修138.5単位、選択31.5単位、実習15.0単位、実務実習24.0単位、総合薬学研究10.0単位)

⑮薬学部カリキュラム<平成21・22・23年度入学生で2019年度第6学年の在學生に適用>

薬学部薬学科教育科目

※担当については、2019年度第6学年開講科目のみ記載

全学教育科目

種類	科目区分	授業科目	授業題目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考
							1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年		
							必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育	導入科目	基礎ゼミナール	早期体験学習	-	2	30													
		文章指導	基礎ゼミナー	-	2		30												
	教養科目	人間と思想	哲学入門	-	2	30													
			死生学入門	-	2	30													
		人間と文化	心理学	-	2		30												
			医療の人類学	-	2			30											
		人間と社会	日本の小説	-	2		30												
			医療社会史	-	2		30												
	基礎教育	外国語科目	英語 I	オーラル・イングリッシュA	-	1	30												
			英語 I	オーラル・イングリッシュB	-	1		30											
英語 II			英語A	-	1		30												
英語 II			英語B	-	1			30											
フランス語			初級フランス語	-		1	30												
健康・運動科学科目		運動科学演習	運動科学演習 I	-	1	30													
		運動科学演習	運動科学演習 II	-		1	30												
		情報科学科目	情報科学	-	2		30												
		自然科学科目	数学	数学	-	2	30												
			物理学	物理学	-	2	30												
化学	化学通論 I			-	2	30													
生物学	化学通論 II		-	2	30														
	生物学		生物学	-	2	30													
基礎生理学 I	-		2	30															
基礎生理学 II	-	2	30																
自然科学入門	基礎化学	-	2	30															
	基礎生物学	-	2	30															
	基礎物理学	-	2	30															
	自然科学実験	自然科学実習	-	4	180														
医療教育基	医療基盤科目	個性健康科学	個性健康科学	-	2	30													
		地域連携	メディカルカフェをつくる I	-		[2]		30											
		医療倫理	メディカルカフェをつくる II	-		[2]			30										
医療倫理	医療倫理学	-	2			30													

・全学教育科目41単位以上修得(必修33単位、選択8単位)

・単位数欄が[ ]の科目は、卒業単位に含まない。

・授業科目について配当単位の記載が複数ある場合は、複数の授業題目により行われることを示し、それぞれの授業題目を一の授業科目として履修することができる。

専門教育科目 その1

授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年		
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
医療推計学	-	1							20							
薬学英語 I	-	1						30								
基礎薬学概論	-	1	20													
化学計算演習	-		1		30											
無機化学	-	1.5		30												
薬品物理化学 I	-	1.5			30											
薬品物理化学 II	-	1.5				30										
放射薬品学	-	1.5					30									
薬品分析化学 I	-	1.5		30												
薬品分析化学 II	-	1.5			30											
臨床分析学	-	1						20								
機器分析学	-	1.5					30									
有機構造分析学	-		1.5					30								
基礎薬学 I 実習	-	2						90								
基礎有機化学	-	1.5		30												
有機化学 I	-	1.5			30											
有機化学 II	-	1.5				30										
有機化学 III	-	1.5					30									
有機化学演習	-	1			30											
薬品合成化学	-	1.5						30								
医薬品化学 I	-	1.5							30							
医薬品化学 II	-		1							20						
生薬学 I	-	1.5			30											
生薬学 II	-	1.5				30										
植物薬品化学	-		1						20							
基礎薬学 II 実習	-	1					90									
薬用植物学	-	1.5	30													
基礎生化学	-	1.5			30											
生化学 I	-	1.5				30										
生化学 II	-	1.5					30									
微生物学	-	1.5			30											
微生物化学	-	1						20								
免疫学	-	1.5							30							
基礎解剖学	-	1.5	30													
遺伝子工学	-		1							20						
漢方薬学概論	-		1								20					
薬局方概論	-	1														
薬品試験法	-		1.5						30							
薬科学特論 I	高上馬 ほか	1													20	
薬科学特論 II	小田(和) ほか	1	1												20	
薬科学特論 III	吉村 ほか	1													20	
薬科学特論 IV	吉村 ほか	1													20	
薬科学特論 V	青木 ほか	1													20	
薬科学特論 VI	青木 ほか	1													20	
基礎薬学総合講義	小田(和) ほか	4														80
基礎薬学 III 実習	-	2						90								
薬学特別演習 I	-		1				30									
薬学特別演習 II	-		1						30							

専門教育科目 その2

授業科目	担当	単位数		開 講 年 次 ・ 時 間 数												備考		
				1学年		2学年		3学年		4学年		5学年		6学年				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学英語Ⅱ	-	1							30									
生理化学	-	1.5						30										
病理学	-	1.5						30										
病態生理学Ⅰ	-	1						20										
病態生理学Ⅱ	-	1						20										
臨床医学概論Ⅰ	-	1						20										
臨床医学概論Ⅱ	-	1						20										
薬理学Ⅰ	-	1.5						30										
薬理学Ⅱ	-	1.5						30										
臨床薬理学Ⅰ	-	1						20										
臨床薬理学Ⅱ	-	1						20										
薬物療法学	-	1						20										
薬物治療学入門	-	1						20										
毒理学	-	1						20										
生物薬剤学	-	1.5						30										
薬物動態学	-	1.5						30										
物理薬剤学	-	1.5						30										
分子生物薬剤学	-	1						20										
調剤学Ⅰ	-	1.5						30										
調剤学Ⅱ	-	1.5						30										
製剤学	-	1.5						30										
製剤設計学	-	1						20										
医療薬学概論	-	1		20														
薬物代謝学	-	1.5						30										
薬剤疫学	-	1						20										
医薬品情報学	-	1						20										
臨床診断学	-	1						20										
実務実習前特別演習Ⅲ	-	1						30										
実務実習前特別演習Ⅳ	-	2						60										
臨床薬物動態学	-	1						20										
医療薬学特論Ⅰ	遠藤(泰) ほか	1															20	
医療薬学特論Ⅱ	飯塚 ほか	1															20	
医療薬学特論Ⅲ	泉 ほか	1															20	
医療薬学特論Ⅳ	小林 ほか	1															20	
医療薬学特論Ⅴ	平野 ほか	1															20	
医療薬学総合講義Ⅰ	遠藤(泰) ほか	4																80
医療薬学総合講義Ⅱ	齊藤 ほか	4																80
薬学特別演習Ⅳ	-	1						30										
実務実習前特別実習Ⅱ	-	1																45
実務実習前特別実習Ⅲ	-	2																90
医療薬学Ⅰ実習	-	2																90
医療薬学Ⅱ実習	-	2																90
医療薬学Ⅲ実習	-	3																135
実務実習(病院)	-	10																450
実務実習(薬局)	-	10																450
医療人間学	-	1						20										
薬事法制Ⅰ	-	1						20										
薬事法制Ⅱ	-	1						20										
社会薬学特論Ⅰ	寺崎 ほか	1																20
社会薬学特論Ⅱ	和田 ほか	1																20
薬局管理論	-	1						20										
公衆衛生学	-	1.5						30										
衛生化学	-	1.5						30										
食品衛生学	-	1.5						30										
環境衛生化学	-	1.5						30										
中毒学	-	1.5						30										
食品予防栄養学	-	1						20										
医療福祉論	-	1						20										
老人福祉論	-	1						20										
在宅ケア論	-	1						20										
医療コミュニケーション	-	1						20										
医療福祉活動演習	-	1						20										
地域福祉論	-	1						20										
社会薬学総合講義	和田 ほか	4																80
薬学特別演習Ⅲ	-	1						30										
衛生薬学実習	-	2						90										
実務実習前特別演習Ⅰ	-	2																60
実務実習前特別演習Ⅱ	-	1																30
実務実習前特別実習Ⅰ	-	1																45
総合薬学研究	研究室教員	10																450
薬学基礎研究Ⅰ	-	[1]						30										
薬学基礎研究Ⅱ	-	[1]						30										
薬学基礎研究Ⅲ	-	[1]						30										

・専門教育科目178単位以上修得(必修107.5単位、選択21.5単位、実習15.0単位、実務実習24.0単位、総合薬学研究10.0単位)  
 ・単位数欄の[]の科目は、卒業単位に含まない。  
 全学教育科目及び専門教育科目を総計219単位以上履修(必修140.5単位、選択29.5単位、実習15.0単位、実務実習24.0単位、総合薬学研究10.0単位)

(2) 歯学部

歯学部を取り巻く環境は、今後の歯学教育のめざすべき目標「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について」の提言や、教育内容のガイドラインとなる歯学教育モデル・コア・カリキュラムの導入、2005年からの共用試験の本格実施及び2006年度からの歯科医師臨床研修マッチングプログラムによる卒後研修制度の義務化等、急速に変化している。

このような状況に対応するために本学部では、

1. 卒業までに修得すべき基本的な知識を整理し、態度及び技能教育の充実を図る。
2. 課題解決型学習を推進し、課題探求能力、分析的評価能力を向上させる。
3. 研修歯科医として必要な態度を身につけさせる。
4. 歯科医師臨床研修を円滑に開始できるための基本的臨床能力を身につけさせる。

以上4点に基づいて、歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂や歯科医師国家試験出題基準の変更等に対応できるカリキュラム編成を行っている。

歯学部 教育理念

本学の教育理念を基本として、歯科保健、歯科医療と福祉の連携・統合をはかる教育を推進し、人々のライフステージに応じた口腔の健康を守る医療人の養成をもって、地域社会ならびに国際社会に貢献し人類の幸福に寄与することを歯学部歯学科の教育理念とする。

① 歯科保健・歯科医療と福祉の連携・統合

高齢化及び少子化の影響を受けて、現在、歯科医療は大きな転換期を迎えている。21世紀の歯科医療は、高齢者や障害者の治療・予防・ケアを通じて、地域における福祉と密接な連携を図らざるを得ない。さらには、在宅の患者に対する訪問歯科ケアも重要性を帯びてきており、看護や介護・リハビリ関係者との連携もますます重要になってくる。したがって、歯学部では、高齢者歯科学・障害者歯科学・歯科医療福祉論等、時代に即応した新しい教育を行う必要がある。つまり、歯科医療を通じて、保健と医療と福祉の連携・統合を図ることが、本学歯学部の教育理念である。

② 生涯を通じた口腔の健康を守る医療人の養成

長寿社会の到来とともに、口腔疾患の予防と健康増進に対する国民の関心は、ますます高くなっている。これからの歯科医療は、患者の健康状態を心身の両面から総合的に把握し、顎口腔系疾患を全身的知見からとらえていかなければならない。したがって、これからの歯科医療は、一人一人の患者の生涯を通じた口腔の健康を守る社会的使命を担うことになる。地域社会との連携が要求される所以である。

歯学部 教育目的

歯学部歯学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と職業倫理を備え、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに、地域的および国際的視野から歯科医学の発展および歯科医療の向上に貢献できる歯科医師の養成を本学科の教育目的とする。

歯学部 教育目標

歯学部歯学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 人々のライフステージにおける口腔疾患の予防、診断および治療について基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療技術の修得
2. 歯科医師としての心構えと倫理観の涵養
3. 生涯にわたる研修の継続と自己開発能力・習慣の確立
4. チーム医療(保健と医療と福祉)における協調力と建設的な行動力の涵養
5. 地域的および国際的な視野の涵養

① 歯科医学・歯科医療に関する基本的な知識および技術を修得する。

科学技術の進歩発展による歯科医学の専門化及び総合化が進んでおり、歯科医療においても、総合的な診断・治療が求められている。それらに応じていけるように、歯科医学・歯科医療に関する基本的な知識及び技術を修得することが目標となる。

② 歯科医師としての心構えと倫理観を育成する。

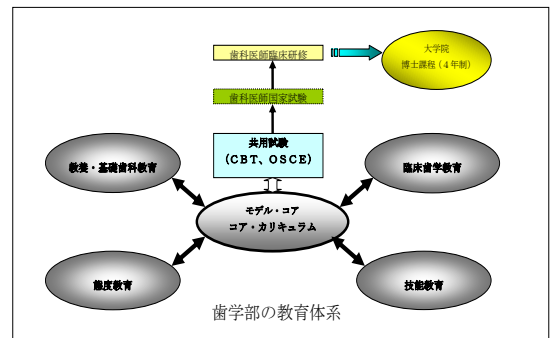
人々の健康に奉仕するという歯科医師としての確固とした心構えと倫理観・責任感を育成する。

③ 自己開発の能力と習慣を身につける。

日進月歩の医療界において、歯科医師として生涯にわたって活躍し続けるためには、たゆまずに研鑽を積んでいかなければならない。そのためには、自己開発の能力と習慣を身につけることが必要である。

④ 協調し建設的に行動できる態度と能力を身につける。

21世紀の歯科医師は、歯科衛生士や歯科技工士だけではなく、医師や薬剤師、看護師やリハビリ担当者、さらには福祉関係者とも協働していかなければならない。したがって、知識と技術と人間性を兼ね備えた能力を身につける必要がある。



<p><b>学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)</b></p> <p>歯学部歯学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得している(専門的実践能力)。</li> <li>2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている(プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力)。</li> <li>3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につけている(自己研鑽力)。</li> <li>4. 多職種(保健・医療・福祉)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる(多職種が連携するチーム医療)。</li> <li>5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけている(社会的貢献)。</li> </ol>
<p><b>教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)</b></p> <p>歯学部歯学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科医師として必要な基本的知識・技能・態度の修得をめざし、専門基礎科目および専門臨床科目の講義・実習を1年次～4年次に段階的に配当する。また、4年次における共用試験(CBT・OSCE)で基礎項目の評価後、5年次～6年次前期に大学病院、および地域での診療参加型臨床実習を行い、専門的実践能力を養成する。6年次後期には、知識・技能・態度を体系的・総合的に整理し、基本的資質・能力の養成を図る(専門的実践能力)。</li> <li>2. 患者中心の医療を提供し法と倫理を遵守する人間性豊かな歯科医師の養成のために、医療倫理教育および医療コミュニケーション教育を1年次～4年次に段階的に編成する。これらの能力については、4年次における共用試験で模擬的・客観的に評価した後、5年次～6年次前期に配当する診療参加型臨床実習によりさらなる養成を図る。また、6年次後期にそれらを体系的・総合的に整理し、本学科が定めた歯科医師として求められる基本的資質・能力の養成を図る(プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力)。</li> <li>3. 研究マインドを涵養し、生涯にわたって自己研鑽を続ける意欲と態度を有する人材の養成を図るため、歯科医学研究科目を編成し、実施する(自己研鑽力)。</li> <li>4. 多職種連携に関する講義・演習を1年次～4年次に段階的に配当し、5年次～6年次前期での診療参加型臨床実習において実践する。さらに6年次後期に多職種連携によるチーム医療を体系的・総合的に整理することにより、基本的資質・能力の養成を図る(多職種が連携するチーム医療)。</li> <li>5. 地域の保健や医療に貢献できる知識と実践的能力養成に向けて演習および診療参加型臨床実習を編成する。また、歯学英语科目に加えて、海外医療時事に関する講義・演習科目および海外臨床研修・実習を実践し、国際的視野の涵養を図る(社会的貢献)。</li> <li>6. 履修科目の学修達成度は、知識に関しては筆記試験やCBT、技能や態度に関してはOSCE、レポート、ポートフォリオ、チェックリストおよびルーブリック等を用いて評価する。診療参加型臨床実習については、ポートフォリオによる継続的な形成的評価およびコンピテンシー試験で基本的な臨床能力を評価する。グローバルマインド、研究マインドの達成度評価には海外臨床研修の研修報告書や各種学術大会等での発表内容、ルーブリック等を用いた活動状況や達成度から検証する。また、歯科医師として具有すべき知識に関して、その達成度を卒業試験で評価し、臨床実習終了時に技能・態度の総括的な評価を行う。</li> </ol>
<p><b>入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)</b></p> <p>歯学部歯学科では、学位授与の方針の要件を修得し、多職種連携によるチーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した歯科医師を養成することを目標としています。そのため、本学科では、以下のような資質を持った人材を広く求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科医師として医療現場で活躍するという強い意志を持っている人</li> <li>2. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人</li> <li>3. 生涯にわたって学修を継続し、自己を磨く意欲を持っている人</li> <li>4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会および国際社会に貢献するという目的意識を持っている人</li> <li>5. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人</li> </ol> <p>*基礎学力について 歯学部歯学科では、専門科目でヒトの体の構造と機能を学ぶとともに歯科治療に用いる様々な材料の物性、化学薬品の性質、検査・治療器具の理論を学びます。そこで生物、物理、化学、数学などの科目を理解し、応用できることが入学後の学修成果を高めることとなります。さらに、専門科目を学ぶ際には英語刊行物の理解が必要になることがあり、また、国際化していく医療現場で貢献する準備として英語力が必要となります。ここに示す「基礎学力を有し」とはこれらの科目を高校で履修していることをさします。ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。</p>
<p><b>歯学部学生が修得すべき知識及び能力</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人々のライフステージにおける疾患の予防、診断および治療を実践するための基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健、歯科医療技術</li> <li>2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力</li> <li>3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力</li> <li>4. 歯科医療の専門家として、地域的、国際的視野で活躍できる能力</li> <li>5. チーム医療(保健と医療と福祉)において協調し建設的に行動できる態度と能力</li> </ol>

## ● 歯学部カリキュラムの特色

歯学部では、教育内容のガイドラインとなる歯学教育モデル・コア・カリキュラムの導入及び共用試験の実施に伴い、より高度な専門的能力を身につけることをめざして、2003年4月にカリキュラム変更を行い、2009年度に教養教育・人間教育の充実を図るとともに、複数の学部が共同する医療基本科目を推進し専門教育への円滑な移行が可能となるよう全学教育科目を導入するなど、授業科目を再編した。また、相対基準の導入(2004年)、歯科医師国家試験の早期化(2006年)等による状況の変化にも対応するために教育内容の見直しを図り、2010年度には、歯科医師国家試験出題基準の各領域に沿ったオリジナルテキストの作成により各講義内容を明確なものとし、基礎学力向上を目的とした「総合学力試験」の導入と併せて歯科医師として必要な知識の定着化を図った。また、新たな試みとして全国医歯学系大学8校(岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡歯科大学、福岡大学、九州歯科大学、本学)が連携し、多地点制御遠隔講義システムにより連携校が一斉に授業を受講できる「医歯学統合講義」を導入した。2011年度には補正教育の強化及び基礎学力向上を目的として補正教育3科目を必修化し、授業時間数の取扱いを整合させることを目的とした専門教育科目の一部見直しを行った。2013年度には、授業科目に軽重をつけることを目的とした全学教育科目の一部見直しや、専門導入科目の導入による専門基礎科目履修の円滑化、臨床実習期間の延長及び学外実習・施設実習の導入による診療参加型臨床実習の充実を目的とした専門教育科目の見直し

を行った。2016年度には、授業科目の整理統合とともに国際感覚を持った歯科医師の養成を目的とする海外臨床実習及び研修を自由選択科目として位置付けた。2017年度には、全学教育科目の教養科目を選択科目とする全学的な統一に際して、一部科目を専門教育科目に移行するなどの科目の整理を行った。2018年度には、歯科医学の研究に早期から関心を抱けるよう、「歯科医学研究」科目を第1～5学年での配当へと学年の幅を増やした。2019年度には、単位数と時間数の整合性を確保し、適切な修得学年への配当を見直した。

- ① **コミュニケーション能力の育成、態度教育、倫理教育等の歯科医師として必要な基本的内容について、質的・量的充実を図り、全学年を通じて教育を行うこととした。**

第1学年に「生命倫理学入門」(現在未開講)「医療人間学演習」「コミュニケーション学Ⅰ・Ⅱ」「医療倫理学」、第3学年に「医療面接法」(現「医療コミュニケーション」)、第4学年に「歯科医療行動科学」等を配当した。

- ② **患者の全人的理解、患者に対する責任感、歯科医師としての倫理観、あるべき態度や価値観を培う等、医療人としての基本的臨床能力を向上させるため、臨床実習に診療参加型のシステムを導入することとした。**

臨床実習Ⅰ・Ⅱの期間を合わせて50週程度とし、「臨床実習内容」水準1を最低限の内容として実施することとした。

- ③ **学生がより理解しやすいよう、従来の科目の枠を越えた統合科目を更に充実させた。**

「口腔生命基礎科学」「歯科材料学統合実習」「歯科診療の基礎」等を新たに加えた。

- ④ **専門教育への円滑な移行が可能となるよう、教養教育の一層の充実を図るとともに、補正教育を目的とした科目を選択科目として開講した。**

必修・選択の区分を見直し、「医事法学」「コミュニケーション学Ⅰ・Ⅱ」等を必修科目にするとともに、補正教育として「基礎物理学」「基礎化学」「基礎生物学」(現「物理学Ⅰ」「生物学」「化学」)を開講し、3科目全ての履修を義務付けた。さらに、2013年度からは専門導入科目として「人体構造科学」「人体機能科学」を開講した。また、保健と医療と福祉の連携をはかる科目として、「医療薬学概論」(現「医薬品の科学」)「看護福祉概論」を選択科目として開講していたが、多職種と連携(チーム医療)可能な知識と態度を系統的に修得することを目的として、2012年度から両科目を必修科目としたほか、2013年度には「リハビリテーション科学概論」を必修科目として新たに配当した。

- ⑤ **\*共用試験の本格実施(2005.12以降)に対応するため、歯学教育モデル・コア・カリキュラムに該当する専門科目の統合的な積上方式による授業科目を2005年度から取り入れた。**

\*共用試験 臨床実習開始前に到達しておくべき学生の能力と適性についての一定水準を確保するために実施する全国共通の標準評価試験。基礎・臨床の知識の総合的理解と問題解決能力はコンピュータを用いた多肢選択形式の客観試験(CBT:Computer Based Testing)で評価し、態度・臨床技能は、医療面接等の実技による客観的臨床能力試験(OSCE:Objective Structured Clinical Examination)で評価する。本学部では、第4学年後期で共用試験を実施している。なお、共用試験の成績は、各大学の総合的な成績評価・進級判定の指標として利用している。2015年度には共用試験対策として少人数制でのローテーション講義を導入した。2017年度には、(公社)医療系大学間共用試験実施評価機構の歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験トライアルに参加し、臨床研修へと繋がる臨床能力の修得状況の測定を行った。

- ⑥ **歯科医学の基礎的研究を奨励し、分析力やコミュニケーション能力等を養うための自由選択科目を2005年度から取り入れた。**

自由選択科目として第3学年～第5学年に「歯科医学研究Ⅰ～Ⅴ」(各1単位)を配当。

- ⑦ **歯科医療のグローバル化に対応し、国際感覚を養うための自由選択科目を2016年度から取り入れた。**

自由選択科目として第3学年及び第4学年に「海外臨床研修 A・B」(1・2単位)、第5学年に「海外臨床実習 A・B」(1・2単位)を配当。

2018年度には、「海外医療時事問題研究Ⅰ～Ⅲ」を第2～4学年に配当した。

⑧ 歯学部カリキュラム

歯学部(歯学科)

全学教育科目

種類	科目区分	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数												備考					
						1年		2年		3年		4年		5年		6年							
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
教養教育	導入科目	基礎ゼミナル	礩部、井上 ほか	2			30																
				2		30																	
				2		30																	
	教養科目	人間と思想	礩部		2	30																	
		人間と文化	花淵、千葉(芳)		2	30																	
人間と社会		佐藤(圭)、櫻井		2	30																		
自然と科学		山口、井上		2	30																		
基礎教育	外国語科目	英語Ⅰ	チェン、サトス	1		30																	
				1		30																	
		英語Ⅱ	塚越、佐藤(圭)、 松本、白鳥	1		30																	
				1			30																
				1				30															
		英語Ⅲ	塚越、佐藤(圭)	1					30														
				1					30														
	フランス語	永野、三浦	1		30																		
			1			30																	
	ドイツ語	阿部	1		30																		
			1			30																	
	健康・ 運動科学科目	健康・ 運動科学演習	森田、山口、井上	1		30																	
				1		30																	
情報科学科目	情報処理演習	西牧	1		30																		
	統計学	原田	2		30																		
自然科学科目	物理学	中野(諭)	2		30																		
			2		30																		
	化学	堀内(正)	2		30																		
			2		30																		
	生物学	東城、近藤	2		30																		
			2		30																		
自然科学実験	中野(諭) ほか	4		66	60																		
医療 基盤教育	医療基盤科目	地域連携	-	(2)	30																		
		医療倫理	礩部 ほか	2		30																	
		多職種連携	三国、向谷地、 齊藤(浩)、鎌田、武 田(涼) ほか	2		30																	
				2		30																	
				2			30																
				2				30															
2					30																		
2							30																

全学教育科目 合計54単位以上修得(うち必修47単位)

\* 単位数欄が( )の場合は、卒業単位に含まない。



歯学部(歯学科)  
専門教育科目

授業科目	担当	単位数	開講年次・授業時間数												計	備考	
			1年		2年		3年		4年		5年		6年				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
歯学概論	(基礎系分野)(臨床系分野)	2	30	30												60	
歯の解剖学	入江	1	30													30	
歯の解剖学実習	越智 ほか	2		60												60	
人体構造科学	坂倉, 入江	2	30													30	
人体機能科学	石井, 宮川	2	30													30	
組織学・発生学	入江 ほか	5			120	30										150	実習を含む。
解剖学・口腔解剖学	坂倉 ほか	10			240	60										300	実習を含む。
生理学・口腔生理学	石井 ほか	5			60	90										150	実習を含む。
生化学・口腔生化学	荒川 ほか	5			60	90										150	実習を含む。
微生物学・口腔微生物学	宮川 ほか	5			60	90										150	実習を含む。
歯科理工学Ⅰ	遠藤 ほか	1		30												30	
歯科理工学Ⅱ	遠藤 ほか	6			60	120										180	実習を含む。
薬理学・歯科薬理学	谷村 ほか	5					90	60								150	実習を含む。
病理学・口腔病理学	安彦 ほか	5					60	90								150	実習を含む。
臨床口腔病理学	安彦 ほか	2							60							60	実習を含む。
公衆衛生学	千葉(逸) ほか	2			60											60	実習を含む。
口腔衛生学	千葉(逸) ほか	4					60	60								120	実習を含む。
保存修復学	斎藤 ほか	6					60	120								180	実習を含む。
歯内療法学	古市 ほか	4							120							120	実習を含む。
歯周治療学	古市 ほか	4							30	90						120	実習を含む。
固定性補綴学	越智 ほか	8					120	120								240	実習を含む。
有床義歯補綴学	越野 ほか	9							150	120						270	実習を含む。
口腔外科学Ⅰ	奥村 ほか	3							60	30						90	
口腔外科学Ⅱ	永易 ほか	3							60	30						90	
歯科矯正学Ⅰ	飯嶋 ほか	2					30	30								60	
歯科矯正学Ⅱ	飯嶋 ほか	2								60						60	実習を含む。
小児歯科学Ⅰ	齊藤(正) ほか	2					30	30								60	
小児歯科学Ⅱ	齊藤(正) ほか	2								60						60	実習を含む。
歯科放射線学Ⅰ	中山 ほか	1						30								30	
歯科放射線学Ⅱ	中山 ほか	2							30	30						60	
歯科麻酔学	照光 ほか	2							30	30						60	
外科・整形外科	青木(光)	1						30								30	
内科学	家子 ほか	2								60						60	
その他の隣接医学 (耳鼻咽喉科学、眼科学、小児科学、 産婦人科学、皮膚科学、臨床検査学)	耳:西澤、眼:北市、 小:太田、皮:安彦、奥村	2									60					60	
歯科生物学	西出	1		30												30	
医事法学	小畑	1									30					30	
医療コミュニケーション	千葉(逸) ほか	1						30								30	
社会歯科学	千葉(逸) ほか	1								30						30	
歯科医療行動科学	千葉(逸) ほか	1								30						30	
法医・歯学	豊下 ほか	1						30								30	
材料学臨床総合演習	遠藤 ほか	1						30								30	
口腔生命基礎科学	(基礎系分野)	3						30	60							90	
高齢者歯科学	會田 ほか	1								30						30	
障害者歯科学	越野 ほか	1								30						30	
口腔インプラント学	越智	1								30						30	
臨床基礎学	(基礎系分野)	4										120				120	
医歯学統合講義	安彦 ほか	1									30					30	
臨床実習Ⅰ	長澤 ほか	35									945	630				1575	
臨床実習Ⅱ	長澤 ほか	8											342			342	
歯科医学総合講義Ⅰ	遠藤 ほか	11								330						330	
歯科医学総合講義Ⅱ	遠藤 ほか	38											780	360		1140	
歯科医学研究Ⅰ	遠藤 ほか	(1)	(30)													(30)	
歯科医学研究Ⅱ	遠藤 ほか	(1)		(30)												(30)	
歯科医学研究Ⅲ	遠藤 ほか	(1)				(30)										(30)	
歯科医学研究Ⅳ	遠藤 ほか	(1)							(30)							(30)	
歯科医学研究Ⅴ	遠藤 ほか	(1)								(30)						(30)	
海外医療時事問題研究Ⅰ	佐藤(圭)	(1)		(30)												(30)	
海外医療時事問題研究Ⅱ	佐藤(圭)	(1)				(30)										(30)	
海外医療時事問題研究Ⅲ	佐藤(圭)	(1)							(30)							(30)	
海外臨床研修A	安彦 ほか	(1)						(30)								(30)	
海外臨床研修B	安彦 ほか	(2)						(60)								(60)	
海外臨床実習A	安彦 ほか	(1)								(30)						(30)	
海外臨床実習B	安彦 ほか	(2)								(60)						(60)	

専門教育科目229単位修得

\* 単位欄の( )は自由選択科目であり、卒業単位には含まない。

### (3) 看護福祉学部（看護学科/臨床福祉学科）

看護福祉学部は、本学の教育理念にある「保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人の養成」を目的としている。そのため、カリキュラム編成においては、「看護と福祉の連携・統合」を積極的に展開できるよう、両学科を密接に関連付けた科目を充実させている。

2008年度に臨床福祉学科に教職課程を開設し、「公民」、「福祉」の高等学校教諭第1種免許状及び特別支援学校教諭第1種免許状を取得できるようにしたほか、2009年度に全学教育科目を導入、さらに、2011年度に指定規則の改正を受けて、看護学科のカリキュラム変更を行い、2012年度入学生から保健師国家試験受験資格を卒業要件ではなく、選択制とした。臨床福祉学科においても、介護福祉士養成コースにおける「医療的ケア」領域の追加等、カリキュラム変更を行っている。

#### 【看護学科】

##### 教育理念

本学の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、総合的なヒューマンケアを担う看護専門職業人を養成することにより、地域社会や人々の健康の向上に貢献することを看護福祉学部看護学科の教育理念とする。

##### 教育目的

看護福祉学部看護学科の教育理念に沿って、人々の健康と福祉の向上のために、看護と福祉を総合的に俯瞰した専門的知識・技術を修得し、人々の尊厳を守り、維持するための総合的ヒューマンケアを実践できる看護師や保健師など看護専門職業人の養成を本学科の教育目的とする。

##### 教育目標

看護福祉学部看護学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. ヒューマンケアに関する深い教養および豊かな人間性の涵養
2. ヒューマンケアを基本とした看護専門職に必要な知識・技術の修得
3. 看護専門領域における自律的・創造的な実践力の涵養
4. ヒューマンサービスに関連する領域の人々と連携できる協調性の確立
5. 地域社会や人々の多様性を理解する能力の涵養

##### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

看護福祉学部看護学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。
2. 看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。
3. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。
4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。
5. 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

##### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

看護福祉学部看護学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 看護学科の教育理念を積極的に展開するために、ヒューマンケアの要素である4領域「人間」、「環境」、「健康」、「実践」を設定し、それらの概念を基本として、各領域における授業科目間の順次性と体系性を保つよう科目を配当する。
2. 1年次では、学修動機の内実化を図り、豊かな人間性や協調性、国際的視野を身につけるための全学教育科目、看護専門職に必要な基礎的知識および看護と福祉に共通するケアマインドを修得するための科目を配当する。
3. 2年次では、看護専門職に必要な専門基礎知識・技術、および様々な人々を対象とした看護学の知識と援助方法を修得するための科目を配当する。
4. 3年次では、2年次までの学修成果の上に立ち、看護専門職に必要な知識と技術を深めるための講義、演習および実習科目を配当する。また、ヒューマンサービスにおける多職種連携にむけた協調性を身につけるための科目を配当する。
5. 4年次では、3年次までの学修成果の上に立ち、理論と実践に習熟し、自らの専門領域を発展させる能力を養成するための実習、専門演習、卒業研究を配当する。
6. 主体的な学修を促すために、講義・演習の事前事後の学修課題を提示するとともに、グループワークや発表を取り入れる。
7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

##### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

看護福祉学部看護学科では、学位授与の方針の要件を修得し、総合的ヒューマンケアを実践し地域社会や人々の健康の向上に貢献できる看護専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 保健・医療・福祉に関心があり、看護を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
3. 看護学を学ぶための基礎学力\*を有し、高い学修意欲および探求心のある人
4. 看護専門職として保健・医療・福祉の現場で活躍したいという強い意志を持つ人
5. 看護専門職として最新の知識・技術を常に学び続けようとする人

##### \*基礎学力について

英語、数学、国語を高等学校等で履修しており、生体の成り立ちや活動を理解するうえで必要となる化学、生物、物理、大学のリベラルアーツ教育の基本となる世界史、日本史、地理、現代社会、政治・経済について、少なくとも1科目以上を履修していることをさします。

## 【臨床福祉学科】

### 教育理念

本学の教育理念を基本として、看護と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、総合的なヒューマンケアを担う福祉専門職業人を養成することにより、地域社会や人々の福祉の向上に貢献することを看護福祉学部臨床福祉学科の教育理念とする。

### 教育目的

看護福祉学部臨床福祉学科の教育理念に沿って、人々の健康と福祉の向上のために、看護と福祉を総合的に俯瞰した専門的知識・技術を修得し、人々の尊厳を守り、維持するための総合的ヒューマンケアの観点から社会福祉士や精神保健福祉士など臨床現場をはじめ、保健・福祉・行政などの場でリーダーとして活躍できる専門職業人の養成を本学科の教育目的とする。

### 教育目標

看護福祉学部臨床福祉学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. ヒューマンケアに関する深い教養および豊かな人間性の涵養
2. ヒューマンケアを基本とした福祉専門職に必要な知識・技術の修得
3. 福祉専門領域における自律的・創造的な実践力の涵養
4. ヒューマンサービスに関連する領域の人々と連携できる協調性の確立
5. 地域社会や人々の多様性を理解する能力の涵養

### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

看護福祉学部臨床福祉学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。
2. 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。
3. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。
4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。
5. 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

看護福祉学部臨床福祉学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 臨床福祉学科の教育理念を積極的に展開するために、ヒューマンケアの要素である4領域「人間」、「環境」、「健康」、「実践」を設定し、それらの概念を基本として、各領域における授業科目間の順次性と体系性を保つよう科目を配当する。
2. 1年次では、学修動機の明確化を図り、豊かな人間性や協調性、国際的視野を身につけるための全学教育科目、福祉専門職に必要な基礎的知識および看護と福祉に共通するケアマインドを修得するための科目を配当する。
3. 2年次では、福祉専門職に必要な専門基礎知識および様々な人々を対象とした知識と援助方法を修得するための専門教育科目を配当する。
4. 3年次では、2年次までの学修成果の上に立ち、福祉専門職に必要な知識と技術を深めるための講義、演習および実習科目を配当する。また、ヒューマンサービスにおける多職種連携にむけた協調性を身につけるための科目を配当する。
5. 4年次では、3年次までの学修成果の上に立ち、理論と実践に習熟し、自らの専門領域を発展させる能力を養成するための実習、専門演習、卒業研究を配当する。
6. 主体的な学修を促すために、講義・演習の事前事後の学修課題を提示するとともに、グループワークや発表を取り入れる。
7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

看護福祉学部臨床福祉学科では、学位授与の方針の要件を修得し、総合的ヒューマンケアを実践し地域や人々の福祉の向上に貢献できる福祉専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 保健・医療・福祉に関心があり、福祉を通じて社会に貢献しようとする意欲がある人
2. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
3. 臨床福祉学を学ぶための基礎学力\*を有し、高い学修意欲および探求心のある人
4. 福祉専門職として保健・医療・福祉の現場で活躍したいという強い意志を持つ人
5. 福祉専門職として最新の知識・技術を常に学び続けようとする人

#### \*基礎学力について

英語、数学、国語を高等学校等で履修しており、生体の成り立ちや活動を理解するうえで必要となる化学、生物、物理、大学のリベラルアーツ教育の基本となる世界史、日本史、地理、現代社会、政治・経済について、少なくとも1科目以上を履修していることをさします。

### 看護福祉学部学生が修得すべき知識及び能力

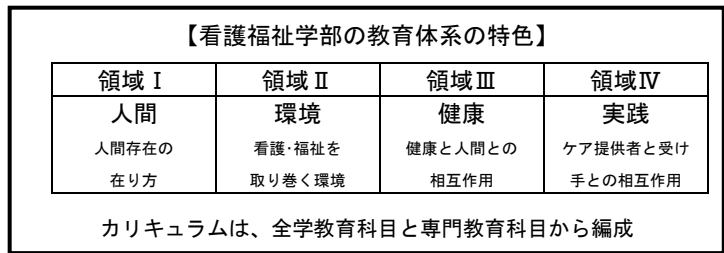
1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性
2. 看護・福祉専門職に必要な知識・技能を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切な判断と解決のできる学術的実践的能力
3. 保健・医療・福祉をはじめ人間に関する様々な領域の人々と連携、協働できる実践的能力
4. 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域を発展させる能力
5. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力

○ **看護福祉学部カリキュラムの特色**

看護福祉学部では、これまで個々に行ってきた看護教育と福祉教育の連携を図り、保健・医療・福祉に関するヒューマンケアの総合的な研究を促進、相互理解が深められるよう、両学科に共通する科目や相互に交流する科目を設けている。さらに、科目が共通するだけでなく、両学科のカリキュラムに共通する概念として、次の4つの領域を設けている。

【教育体系】

- I. 人間 [人間存在の在り方]
- II. 環境 [看護・福祉を取り巻く環境]
- III. 健康 [健康と人間との相互作用]
- IV. 実践 [ケア提供者と受け手との相互作用]



4領域のいずれかに「全学教育科目(2009.4から学部共通基礎科目に替えて導入)・各学科「専門教育科目」のすべてを必ず位置付けることにより、全課程を通じ、科目間の密接な関連付けが一貫して保たれることとなる。また、講義、演習及び臨地実習を系統的に学べるよう配慮し、学年に従って、より高度で実践的な内容が学習できるよう構成している。こうしたことにより、一般教育科目と専門教育科目との融合とともに、共通の考え方の上にそれぞれの専門知識・技術を持ったスペシャリストの育成をめざしている。

これまでに、精神保健福祉士指定科目の新設(2000)、学部再編と併せた学科改編(2002)、全学教育科目の導入によるカリキュラム再編成(2009)、その他指定規則改正に伴うカリキュラム改正を行い、教育の充実を図ってきている。

○ **カリキュラムの特徴**

① **全学教育科目**

教養教育、基礎教育、医療基盤科目の各科目を概ね1～2年次に履修する。

② **専門教育科目**

・看護学科

2012年4月から、選択制の保健師養成コース(定員15名)を開設するとともに、看護実践能力を高めるために看護実践演習を開講し、OSCEを導入した。

・臨床福祉学科

社会福祉士・精神保健福祉士指定科目の改正に伴い、専門科目の名称変更等、科目を再編した。

・その他

自由選択科目として総合講義を4年後期で開講し、国家試験対策等を充実させた。

③ **臨床福祉学科履修コース**

専門領域ごとに3コース(保健福祉臨床、精神保健福祉、介護福祉)で履修する。

・保健福祉臨床コース：施設や地域で福祉に関する実践的な直接援助に携わる人材の育成  
(取得できる資格)社会福祉士国家試験受験資格

・精神保健福祉コース：精神保健福祉関係の病院施設での相談援助に携わる精神保健福祉士の育成  
(取得できる資格)社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格

・介護福祉コース：対象者の援助に指導的役割を担える介護福祉士の育成  
(取得できる資格)社会福祉士国家試験受験資格、介護福祉士国家試験受験資格

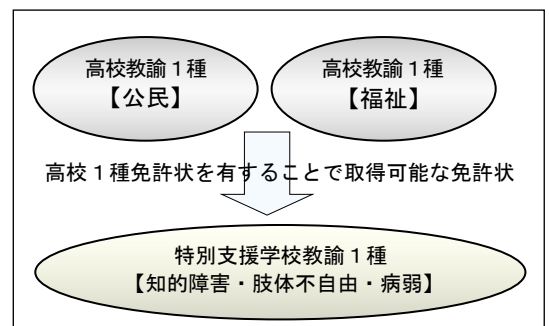
\* 各コースで取得できる資格のほかに、社会福祉主事等の福祉専門職の任用資格が取得できる。

\* 各コースの履修選択は、介護福祉コースは入学直後に、その他のコースは第2学年後期終了時に、それぞれ行う。



○ **教職課程**

2008年4月から臨床福祉学科に開設した。教員免許状を取得するため、「教職入門」、「教育原理」、「教育実習」等の教職に関する科目のほか、特別支援学校教員免許状を取得する科目等、所定の科目を履修する。なお、履修するコース(前述)によって、取得できる教員免許状が異なる。



○ **スクールソーシャルワーク教育課程**

2014年に臨床福祉学科に開設した。「スクール(学校)ソーシャルワーク演習」、「スクール(学校)ソーシャルワーク実習」等の所定の科目を履修し、社会福祉士または精神保健福祉士として登録を受けた者に「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程修了者」として修了証が交付される。

○看護福祉学部カリキュラム  
看護福祉学部(看護学科・臨床福祉学科)  
全学教育科目

種類	科目区分	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考	
						1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養教育	導入科目	基礎ゼミナール	井上 ほか/薄井	2	30									2単位以上修得	
		文章指導	井上	2	30										
	教養科目	人間と思想	森元	2	30										3授業科目6単位以上修得
			磯部	2	30										
		人間と文化	花淵 ほか/千葉	2	(30)										
	井上	2	30												
	人間と社会	志水(幸) ほか/薄井	2	(30)											
基礎教育	外国語科目	英語 I	ターノフ ほか	1			30							必修科目を含め6単位以上修得	
			ターノフ	1			30								
		英語 II	鎌田(禎)/塚越	1	30										
			足利 ほか/鎌田(禎)	1	30										
			鎌田(禎)/赤間 ほか	1	30										
		初修外国語	鎌田(禎)	1	30										
	染木/阿部/呉/韓		1	(30)											
		染木/阿部/呉/韓	1	(30)											
	健康・運動科学科目	健康・運動科学	森田 ほか	2	30									看護学科は必修科目を含め8単位以上修得	
		健康・運動科学演習	森田 ほか	1	30										
	情報科学科目	情報科学	二瓶 ほか	2	30									臨床福祉学科は必修科目を含め6単位以上修得	
		情報処理演習	二瓶/長谷川(聡)	1	30										
		統計学	志渡	2	30										
	自然科学科目	物理学	長谷川(敦)	2	30										
		化学	鈴木(喜)	2	30										
		生物学	新岡	2	30										
人文社会科目	社会学	薄井	2	30									看護学科は8単位以上修得		
	経済学	櫻井	2	30											
		櫻井	2	30			30								
	法学	姫嶋	2	30									臨床福祉学科は10単位以上修得		
		姫嶋	2	30											
	人類学	花淵	2	30											
花淵		2	30			30									
心理学	安部	2	30												
	地域連携	白石 ほか	2	30											
	多職種連携	竹生 ほか	2	30											
		吉田 ほか	1						30						

全学教育科目合計32単位以上修得(うち必修、看護学科8単位、臨床福祉学科8単位)

\*時間数を( )で記載している授業科目は、当該期(前期又は後期)に複数の授業題目により行われる場合があることを示す。

看護福祉学部(看護学科)  
専門教育科目

分類	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考		
					1年		2年		3年		4年			計	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
I	看護学原論	杉田	2		30									30	必修科目12単位以上修得
	人間発達論	今井	2		30									30	
	看護福祉学入門	杉田 ほか	2			30								30	
	臨床心理学	森	2			30								30	
	看護倫理	塚本 ほか	2						30					30	
	看護管理論	福井	2										30	30	
コミュニケーション論	長谷川		2			30							30		
II	社会福祉概論	志水(幸)	2		30									30	必修科目8単位以上修得
	家族関係論	鈴木(幸)	2			30								30	
	公衆衛生学	西 ほか	1				30							30	
	疫学	西	1					30						30	
	保健統計	西	1						30					30	
	保健医療福祉行政論 I	萩野 ほか	1						15					15	
III	医学原論	小林 ほか	1		30									30	必修科目20単位以上修得
	人体構造機能学 I	濱田	1		30									30	
	人体構造機能学 II	倉橋	1		30									30	
	人体構造機能学 III	濱田	1			30								30	
	人体構造機能学 IV	倉橋	1			30								30	
	人体構造機能学演習	濱田 ほか	1				30							30	
	生化学	尾西	1			30								30	
	微生物学	小林	1			30								30	
	薬理学	平野	1				30							30	
	病理学 I	濱田	1			30								30	
	病理学 II	濱田	1				30							30	
	食物学	野原 ほか	1				30							30	
	成人病態論 I	小林 ほか	1				30							30	
	成人病態論 II	小林	1					30						30	
	成人病態論 III	唐津 ほか	1						30					30	
	小児病態論	木浪 ほか	1						30					30	
	母性病態論	遠藤(紀) ほか	1						30					30	
	精神病態論	宮地 ほか	1						30					30	
老年病態論	萩野 ほか	1						30					30		
リハビリテーション法	岩瀬 ほか	1						30					30		
IV	看護技術論	平 ほか	1		30									30	必修科目60単位以上修得
	看護技術基礎演習	明野(伸) ほか	1		30									30	
	看護技術各論 I	明野(伸) ほか	1			30								30	
	看護技術各論 II	早出 ほか	1				30							30	
	看護技術演習 I	明野(伸) ほか	1			30								30	
	看護技術演習 II	早出 ほか	1				30							30	
	母性看護学	常田 ほか	2			30								30	
	母性看護学演習	遠藤(紀) ほか	1					30						30	
	小児看護学	三国 ほか	2					30						30	
	小児看護学演習	木浪 ほか	1						30					30	
	成人看護学	佐々木(栄)	2		30									30	
	成人看護各論 I	高木 ほか	1				30							30	
	成人看護各論 II	神田 ほか	1					30						30	
	成人看護各論 III	西村 ほか	1						30					30	
	成人看護学演習	高木 ほか	1						30					30	
	がん看護学	熊谷 ほか	2							30				30	
	老年看護学	山田 ほか	2				30							30	
	老年看護学演習	内ヶ島 ほか	1						30					30	
	精神看護学	宮地 ほか	2					30						30	
	精神看護学演習	八木 ほか	1						30					30	
	在宅看護学	竹生 ほか	2						30					30	
	在宅看護学各論	川添 ほか	1							30				30	
	在宅看護学演習	川添 ほか	1							30				30	
	公衆衛生看護学概論	工藤 ほか	2				30							30	
	公衆衛生看護学活動展開論 I	工藤	1					15						15	
	公衆衛生看護学活動展開論 II	工藤	2						30					30	
	公衆衛生看護学活動展開論 III	田中	2							30				30	
	公衆衛生看護学管理論	田中 ほか	1									15		15	
	クリティカルケア	神田 ほか	1							15				15	
	皮膚・排泄ケア	平島	1									15		15	
感染管理	塚本 ほか	1									15		15		
看護実践演習	宮地 ほか	1						30					30		
基礎看護学実習	杉田 ほか	3						135					135		
母性看護学実習	常田 ほか	2							90				90		
小児看護学実習	三国 ほか	2							90				90		
成人看護学実習 I	熊谷 ほか	4								180			180		
成人看護学実習 II	神田 ほか	4									180		180		
老年看護学実習	内ヶ島 ほか	4								180			180		
精神看護学実習	八木 ほか	2								90			90		
在宅看護学実習	竹生 ほか	2								90			90		
卒業研究	福井 ほか	3									30	60	90		
保健師 教育課程	公衆衛生看護学活動展開論 IV	工藤 ほか		2								60		60	保健師養成コースは 13単位すべて必修
	公衆衛生看護学活動展開論 V	明野(聖) ほか		2								60		60	
	健康教育論	明野(聖) ほか		2									60	60	
	保健医療福祉行政論 II	田中 ほか		2									30	30	
	公衆衛生看護学実習	工藤 ほか		2									225	225	
自由選択科目	看護総合講義	山田 ほか		5								30	30	自由選択科目	
専門教育科目 合計100単位以上修得															
看護学科 合計132単位以上修得															

看護福祉学部(臨床福祉学科)  
専門教育科目

分類	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考		
					1年		2年		3年		4年			計	
					必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期
I	社会福祉原論	志水(幸)	4											60	
	看護福祉学入門	奥田 ほか	2			30								30	
	社会心理学	薄井	2	2			30							30	
	ソーシャルワーク入門	松本(望) ほか	2			30								30	
	福祉哲学と倫理	小野	2								30			30	
	介護コミュニケーション論	長谷川	4				30	30						60	
	コミュニケーション論	長谷川	2	2			30							30	
臨床福祉学導入演習	佐藤 ほか	1		30										30	
II	社会保障論	大友 ほか	4				30	30						60	
	公的扶助論	大友	2				30							30	
	地域福祉論	大内	4				30	30						60	
	児童福祉論	福岡 ほか	2	2			30							30	
	障害者福祉論	近藤	2				30							30	
	家族福祉論	奥田	2						30					30	
	高齢者福祉論 I	池森	2			30								30	
	高齢者福祉論 II	松本(望)	2				30							30	
	医療福祉論	巻	2						30					30	
	医療ソーシャルワーク実践論	巻	2							30				30	
	スクールソーシャルワーク論	福岡	2							30				30	
	精神保健福祉論 I	佐々木(敏)	2				30							30	
	精神保健福祉論 II	佐藤(園)	2						30					30	
	精神保健福祉論 III	佐藤(園)	2							30				30	
福祉行政・福祉計画論	志水(幸) ほか	2				30							30		
民法	齋藤	2						30					30		
行政法	佐久間	2							30				30		
III	医学一般	百野	2			30								30	
	医学原論	小林 ほか	1	30										30	
	精神医学 I	高橋(美)	2			30								30	
	精神医学 II	高橋(美)	2				30							30	
	精神保健学 I	佐々木(敏) ほか	2				30							30	
	精神保健学 II	佐々木(敏) ほか	2					30						30	
	公衆衛生学	志渡 ほか	2		30									30	
	薬理学	柴山	2				30							30	
	リハビリテーション論	鎌田(樹) ほか	2						30					30	
	保健医療福祉情報論	長谷川	2						30					30	
	障害基礎医学	近藤 ほか	2					30						30	
	心身機能構造論	今野	2							30				30	
	認知症ケア論	松本(望)	2			30								30	
	IV	ソーシャルワーク論 I	志水(幸) ほか	4	30	30									60
ソーシャルワーク論 II		福岡 ほか	4			30	30							60	
ソーシャルワーク論 III		大友 ほか	4					30	30					60	
精神保健福祉ソーシャルワーク論		佐藤(園)	2			30								30	
社会福祉調査法		志渡	2						30					30	
社会福祉運営管理論		松本(剛)	2						30					30	
介護管理論			2							30				30	
就労支援論		辻(伸)	1							15				15	
権利擁護・成年後見制度論		松本(望)	2									30		30	
更生保護制度論		佐藤(園)	1									15		15	
ソーシャルワーク演習 I		巻 ほか	1		30									30	
ソーシャルワーク演習 II		福岡 ほか	2			30	30							60	
ソーシャルワーク演習 III		巻 ほか	2						30	30				60	
ソーシャルワーク基礎実習指導		近藤 ほか	1				30							30	
ソーシャルワーク基礎実習		近藤 ほか	1				40							40	
ソーシャルワーク実習指導		巻 ほか	2						45	45				90	
ソーシャルワーク実習		巻 ほか	4							180				180	
介護概論 I		高橋(由)	4	30	30									60	
介護概論 II		池森	4			30	30							60	
介護概論 III		今野	4						30	30				60	
生活支援技術論 I		池森	4	30	30									60	
生活支援技術論 II		池森 ほか	4			60								60	
生活支援技術論 III		池森 ほか	4					60						60	
生活支援技術論 IV		今野	2						30					30	
生活支援技術論 V		加藤	4						60					60	
生活支援技術論 VI		池森 ほか	2								30			30	
療育的ケア		今野	7						75	30				105	
実地研修 I		今野	0.5									15		15	
実地研修 II		今野	0.5									15		15	
実地研修 III		今野	0.5									15		15	
実地研修 IV		今野	0.5									15		15	
実地研修 V		今野	0.5									15		15	
介護過程論 I		高橋(由)	2		30									30	
介護過程論 II		高橋(由)	4			30	30							60	
介護過程論 III		高橋(由)	4						30	30				60	
介護総合演習 I		池森 ほか	1	15	15									30	
介護総合演習 II		池森 ほか	1				30							30	
介護総合演習 III		高橋(由) ほか	1						15	15				30	
介護総合演習 IV		高橋(由) ほか	1								30			30	
介護実習 I		池森 ほか	1	45										45	
介護実習 II		池森 ほか	3				135							135	
介護実習 III		高橋(由) ほか	2							90				90	
介護実習 IV		高橋(由) ほか	4									180		180	
精神保健福祉の理論と方法 I		向谷地	4						30	30				60	
精神保健福祉の理論と方法 II		向谷地	4								30	30		60	
精神保健福祉ソーシャルワーク演習 I		向谷地 ほか	1							30				30	
精神保健福祉ソーシャルワーク演習 II		向谷地 ほか	1								30			30	
精神保健福祉ソーシャルワーク実習		向谷地 ほか	5									210		210	
精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導 I		向谷地 ほか	1							45				45	
精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導 II		向谷地 ほか	1								45			45	
ソーシャルワーク応用実習		近藤 ほか	4								180			180	
ソーシャルワーク応用実習指導 I		近藤 ほか	0.5							15				15	
ソーシャルワーク応用実習指導 II		近藤 ほか	1								45			45	
地域共生社会演習 I		大原	2								60			60	
地域共生社会演習 II	大原	1									30		30		
臨床福祉専門演習 I	臨床福祉学科教員	1							30				30		
臨床福祉専門演習 II	臨床福祉学科教員	2									30	30	60		
卒業論文	臨床福祉学科教員	4									30	30	60		
社会福祉研究法	志水(幸) ほか	1								15			15		
臨床福祉総合講義	松本(望) ほか	4									30	30	60		
現代社会論	薄井	2										30	30		
スクールソーシャルワーク教育課程	スクール(学校)ソーシャルワーク演習	福岡 ほか	1						30					30	
	スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導	福岡 ほか	2									30		30	
	スクール(学校)ソーシャルワーク実習	福岡 ほか	2										80	80	

専門教育科目 合計98単位以上履修  
臨床福祉学科 合計130単位以上履修

#### (4) 心理科学部

心理科学部は、21世紀の心の問題やコミュニケーション障害を抱えた人を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解した上で、科学的手法を用いて対処可能な専門職能人の養成を目的としている。  
臨床心理学科は、「心の問題」への身体的側面からのアプローチとして、医科学・認知科学系の科目充実をカリキュラム上で図り、加えて臨床実習に力を置き、心理の専門家としての臨床能力向上をめざす。  
また、現代の国際化・情報化社会を考慮して、語学関連科目及び情報処理科目をカリキュラム上に多く配当し、幅広い教養を備えた専門職能人育成をめざしている。

#### 心理科学部臨床心理学科 教育理念

本学の教育理念を基本として、現代科学技術の成果を認識し、心にかかわる自然科学と人文社会科学の連携による健康科学教育を推進する。生命の価値に対する倫理観を涵養し、心の障害、コミュニケーション障害を真摯に受け止めることが出来る知性と感性を備えた人材を養成することにより、人類の幸福に貢献することを心理科学部臨床心理学科の教育理念とする。

#### ①文理が連携した教育を積極的に行う。

複雑な障害を有する人について、その構造と働きを理解するために生物科学、物質科学、人文科学、社会科学を連携させた教育を実践する。

#### ②心とコミュニケーション・言語障害および食にかかわる保健・医療・福祉からの研究教育を個性を基盤として推進する。

近年、少子化・高齢化に伴い、心とコミュニケーション及び食が関係する問題への対処法が求められ、他方では、生物・物質科学の進展に見合った一人一人の心理的幸福が求められている。これらの問題に対処するために、心の個性を尊重した保健・医療・福祉の立場から科学的根拠に基づいた実践的な教育研究を推進する。

#### ③生命の価値に対する真摯な倫理観を涵養する。

相互尊重・共生の価値観を共有し、人間として何をなすべきか、何をしてはならないかを判断できる倫理観を涵養する。

#### ④心の障害、コミュニケーション障害を人の一生の出来事として受け止める。

障害への対処は、障害を起こさない生活環境の構築、障害に対する処置が完了した後の生活の質への配慮が欠かせない。そのために障害を一生の出来事として真摯に受け止める教育を実践する。

#### 心理科学部臨床心理学科 教育目的

心理科学部臨床心理学科の教育理念に沿って、心にかかわる自然科学と人文社会科学が連携した教育を通して、生命の価値に対する真摯な倫理観を涵養し、心の障害、コミュニケーション障害を一生の出来事として受け止めることが出来る知性と感性を備えた公認心理師や産業カウンセラー、スクールカウンセラー等の心理学に関する専門的知識を修得した人材の養成を本学科の教育目的とする。

#### 心理科学部臨床心理学科 教育目標

心理科学部臨床心理学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 心の障害、コミュニケーション障害に対処する心理専門職としての知識・技術の修得
2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて専門性を検証し、自己研鑽できる能力の育成
3. 予防的、治療的、予後的次元から様々な障害を見通せる能力の涵養
4. 生命の尊厳に対する専門性のかかわりを常に意識できる感性の育成
5. 地域的・国際的に貢献しうる学識と行動力の涵養

#### ①文理を連携させた心に関わる個性健康科学の樹立

今日、健康な生活は、心理的にも身体的にも個人を対象とするニーズが高まってきている。このニーズに応えるために、人が生物的存在であると同時に心理・社会的存在であることを考慮し、認知科学・神経科学・言語科学・社会科学を連携させた(文理連携)心理科学を基盤として個性を対象とする教育体系を構築する。

#### ②心・行動の障害に関する基礎的研究の実践

各分野の統合的教育・実践活動を通じ、それぞれの特性の基本・本質を追求する基礎的研究の充実を図る。特に心理科学からのアプローチを図る。

#### ③地域的臨床心理援助への貢献

- ・心理臨床領域の高度専門職能人(公認心理師)養成を行う大学院との連携を図る。大学院には実践的な援助・支援活動を可能とする心理臨床・発達支援センターを設置し、地域的支援活動を実践する。
- ・少子化に伴い乳幼児期の臨床が注目されていることから、発達臨床の相談機能を充実させ、言語発達とも関連させる。

#### ④地域的・国際的に実践的に活躍できる能力の形成

グローバル化時代に対応し、ICT(情報技術)を応用した、多文化との交流のための情報発信が可能な実践的英語力の習得を図る。

#### ⑤実践的な情報処理技能の習得

インターネット・パソコン基本ソフトを活用でき、加えて初歩的なプログラミング力を持った実践的情報処理技能の習得を図る。

#### ⑥情報発信能力の形成

専門領域に関して受身でなく、どのように関わるべきか、何をすべきかを具体的、国際的、地域的に情報発信できる能力の形成を図る。

#### ⑦生涯学習の実践

- ・社会に開かれた大学を目指し、編入学制度を導入する。
- ・他の高等教育機関で受けた単位は、可能な限り既修得単位として認める。
- ・卒業生に対するリカレント教育を取り入れる。

#### 心理科学部臨床心理学科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

心理科学部臨床心理学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。
3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的スキルを修得している。

#### 心理科学部臨床心理学科 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

心理科学部臨床心理学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 1年次には、大学教育へのスムーズな移行を図るために、導入科目を配当する。また、健康・運動科学および情報化社会への対応科目も1年次に配当する。
2. 豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけるために、教養科目を1年次から2年次に配当する。また、社会のグローバル化・多文化化に対応する外国語科目を1年次から2年次に配当する。



3. 1年次から3年次にかけては、身体科学と対応した心の基礎的な知識を身につけるために関連する医療基盤科目、医療系科目を配当する。
4. 1年次より、専門教育科目の体系化・構造化を図り、臨床心理専門領域の理解・深化を目的とした科目を配当する。また、1年次から4年次にわたって、公認心理師受験資格取得科目を配当し、国家資格に必要な知識・技能の修得を図る。
5. 2年次より、多様な職業分野へのキャリア形成を図るため、進路支援科目・産業心理科目を配当する。また、心理臨床の基礎的技術を修得するために、1年次から4年次にわたって、コミュニケーション科目・心理療法科目を配当する。
6. 3年次以降は、専門演習、心理文献講読等の科目履修を通して、自らのテーマによって教養と専門性を維持向上させる研究を実践する。
7. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、ルーブリックを用いたレポート、実技試験などを実施する。

#### 心理科学部臨床心理学科 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

心理科学部臨床心理学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる心理専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある人
2. 心の問題に関心を持ち、他者を援助することに意欲を持っている人
3. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人
4. 生涯にわたって学び、それを継続する意思を有している人
5. 心理学の専門家として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人

\*基礎学力について

高等学校等で英語、国語等の履修により修得した基礎的知識に加えて、それらを活用し、自ら発展させていく意欲等を含むものをさします。

#### 心理科学部学生が修得すべき知識及び能力

##### ○ 臨床心理学科

1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い専門知識
2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、専門性を維持向上させる能力
3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し援助する基礎技術

##### ○ 心理科学部カリキュラムの特色

本学部の教育を効果的かつ有効に行うために、以下のとおり配当した。

##### 1) 全学教育科目

教養教育、基礎教育および医療基盤教育科目で構成され、幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養を大きく担い、大学で学ぶ力、専門性を支え、卒業後も地域ならびに国際社会で活躍できるための総合的人間力を身につける基盤をつくる。

- ・教養教育 … 人間性豊かな学識ある市民、専門職業人となるために、大学および生涯学習の技法を身につけ、人間理解力、幅広く深い教養と豊かな人間力を形成する。
- ・基礎教育 … 専門教育を受ける基礎を確立するために、専門的学問の基礎を身につける科目群である。専門の学問の体系を認識し、専門の学術を学ぶ方法の基盤を形成する。
- ・医療基盤教育 … 医療系総合大学として、複数の専門分野に共通する医療および福祉の基盤教育を複数の専門分野が協力して提供する。

##### 2) 臨床心理学科 専門科目の考え方

- ・専門科目の核として、公認心理師受験資格取得に必要な心理学基礎科目を重点的に配当する。臨床心理学の実践的基礎として、アセスメント、実習にはできるだけ少人数指導が可能となるよう配慮する。
- ・心理学実験は心理学の基本科目であるので、少人数の指導ができるよう配慮する。
- ・科学的論理、自主的研究能力を養成するため、研究法、専門演習を配当する。
- ・専門科目の領域は、心理学基礎科目をはじめ、実践的知識と技術の習得を目指して、査定と援助、心理的障害、実習、及び公認心理師と臨床心理の基礎科目として、医科学、経験と成長、個人と社会、研究の諸領域とする。
- ・専門演習を経て、卒業研究では専門科目の教育を完成するものとする。
- ・学部の臨床心理技術として、臨床心理的査定の習得に特に配慮する。臨床心理士資格・公認心理師資格を持つ教員による指導を行う。

④心理学部カリキュラム  
心理学部(臨床心理学)

全学教育科目(2019年度一般入学生に適用)(相当については2019年度開講科目のみ記載)

種類	科目区分	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考	
						1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養教育	導入科目	基礎セミナー	西郷 ほか	2		30									
		文章指導	井上	2			30								
	教養科目	人間と思想	人間と思想	森元	2		(30)	(30)							
				磯部	2				(30)	(30)					
				-	2						(30)	(30)			
		人間と文化		佐藤	2		(30)	(30)							
				-	2					(30)	(30)				
				-	2							(30)	(30)		
		人間と社会		薄井、姫嶋	2		(30)	(30)							
				櫻井、千葉	2			(30)	(30)						
				-	2					(30)	(30)				
自然と科学		原	2		(30)	(30)									
		鈴木	2			(30)	(30)								
基礎教育	外国語科目	英語 I	ケイン ほか	1		(30)								2単位修得	
		英語 II	ケイン ほか	1			(30)	(30)						2単位修得	
			異	1	1	(30)	(30)								
			-	1				(30)	(30)						
			永井	1	1	(30)	(30)								
			-	1				(30)	(30)						
	初修外国語		-	1				(30)	(30)						
			-	1						(30)	(30)				
			阿部	1	1	(30)	(30)								
			-	1				(30)	(30)						
			-	1						(30)	(30)				
			-	1								(30)	(30)		
			-	1										(30)	
			-	1											
			-	1											
	情報科学科目	情報科学	西牧	2				30							
	健康・運動科学科目	情報処理演習	西牧 ほか	1		(30)	(30)							2単位修得	
		統計学	西牧	2		30									
		健康・運動科学	藤田 ほか	2	2	(30)	30								
		多職種連携	中野 ほか	2	2	(30)	30								
	医療基盤教育	医療基盤科目	地域連携	西郷	2	2	(30)	(30)							
				-	2				(30)	(30)					
				-	2						(30)	(30)			
			医療倫理	磯部	2	2	(30)	(30)							
			-	2						(30)	(30)				
		-	2								(30)	(30)			
		-	2									(30)			
		-	2									(30)			
		-	2									(30)			

以上、全学教育科目については27単位以上修得(うち必修12単位)  
\* 時間数を( )に設定している授業科目は、複数の授業科目により行われる場合があることを示す。

専門教育科目(2019年度一般入学生に適用)(相当については2019年度開講科目のみ記載)

種類	科目区分	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考
						1年		2年		3年		4年		
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
公認心理師科目	心理学基礎科目	公認心理師の職責	富家 ほか	2	4	30	60							
		心理学理論	富家	2	4	30	60							
		臨床心理学概論	佐々木	2		30	30							
		心理学研究法	佐々木	2		30	30							
		心理学統計法 I	漆原	2		30								
		心理学統計法 II	-	2	2		30							*
		心理学実験	-	2	2		90							*
			-	2	2		30							*
			学習・言語心理学 I	漆原	2	2	30							*
			学習・言語心理学 II	-	2	2		30						*
	心理学発展科目	感情・人格心理学 I	-	2	2			30						*
		感情・人格心理学 II	-	2	2				30					*
		神経・生理心理学 I	-	2	2			30						*
		神経・生理心理学 II	-	2	2			30						*
		社会・集団・家族心理学	真島 ほか	2	2	30								*
		発達心理学 I	-	2	2	30								*
		発達心理学 II	-	2	2	30								*
		障害者・障がい心理学	-	2	4	60			30					*
		心理的アセスメント	-	2	2					30				*
		心理学的支援法 I	-	2	2						30			*
	実践心理学	健康・医療心理学 I	-	2	2				30					*
		健康・医療心理学 II	-	2	2					30				*
		福祉心理学	-	2	2						30			*
		教育・学校心理学 I	-	2	2							30		*
		教育・学校心理学 II	-	2	2								30	*
		司法・犯罪心理学	-	2	2								30	*
		産業・組織心理学	-	2	2									30
人間の構造と機能及び疾病 I		下村	2	2	30									
心理学関連科目	人間の構造と機能及び疾病 II	下村 ほか	2	2		30								
	精神疾患とその治療	-	2	2			30						*	
実習演習科目	関係行政論	-	2	4							30			
	心理演習	-	2	4							120			
	心理実習	-	2	4								90		
	専門演習 I	-	2	2									60	
	専門演習 II	-	2	2									60	
	専門演習 III	-	2	2									60	
	心理文献講読 I	-	2	2								30		
	心理文献講読 II	-	2	2									30	
	心理情報処理	-	2	2							30			
	心理科学基礎 I	国永	1	1	15									
	心理科学基礎 II	-	1	1		15								
	心理科学基礎 III	-	1	1			15							
臨床心理専門科目	心理科学基礎 IV	-	1	1				15						
	ジェンダー論	-	2	2			30							
	環境心理学	-	2	2			30							
	心理学の歴史	-	2	2					30					
	臨床心理学特別講義 I	-	2	2						30				
	臨床心理学特別講義 II	-	2	2							30			
	コミュニケーション概論	-	2	2	30									
	コミュニケーション実践論 I	荒井 ほか	2	2	30									
	コミュニケーション実践論 II	石垣	2	2										
	コミュニケーション実践論 III	-	2	2										
	心理療法の実際 I	-	2	2					30					
	心理療法の実際 II	-	2	2						30				
	心理療法の実際 III	-	2	2							30			
	心理療法の実際 IV	-	2	2								30		
	キャリア・プランニング I	-	2	2				30						
	キャリア・プランニング II	-	2	2					30					
キャリア・プランニング III	-	2	2						30					
キャリア・プランニング IV	-	2	2							30				
医療系科目	医学総論	中野	1	2		15								
	内科学	-	2	2				30						
	薬理学	-	2	2					30					
	解剖学	-	2	2						30				
	公衆衛生学	-	2	2							30			
	小児科学	-	2	2								30		
	行動経済学	-	2	2									30	
産業心理科目	労働安全衛生論	-	2	2									*	
	-	-	2	2										

以上、専門教育科目については101単位以上修得、全学教育科目と合わせて128単位以上修得(必修53単位・選択75単位以上)□

(5) リハビリテーション科学部(理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚療法学科)

我が国は、急速に少子・高齢化が進行し、病院や地域における医療水準は高度なチーム医療に依存する時代になってきている。そのような社会と医療職者の環境の変化に対応し、チーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成する全ての医療職とその専門性、そのチームの持つ機能について十分な理解を有する能力を備えていることが強く求められている。また、急性期医療から在宅に至るまで、いかなるシチュエーションにおいても最先端の科学的知識を基盤とした高度な技術(Evidence Based Physical Therapy, EBPT, Evidence Based Occupational Therapy, EBOT)により広域社会に貢献する人材の育成も求められている。

リハビリテーション科学部は、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科の3学科からなり、医療に対する社会のニーズの質的・量的変化に対応し、高度な医療技術と科学に基づくリハビリテーションと、それを推進するチーム医療に対応できる人材育成、課題解決能力を有し「リハビリテーション」と「福祉・介護」の連携・統合を実践できる医療人の育成を目的として、本学の教育理念の下、保健・医療・福祉分野で活躍する高度なリハビリテーション専門職(理学療法士/作業療法士/言語聴覚士)の養成をめざしている。

【理学療法学科】

教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての理学療法士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念とする。

教育目的

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉の向上に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域的および国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての理学療法士の養成を本学科の教育目的とする。

教育目標

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 理学療法士に求められる幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の養成
2. 科学的根拠に基づく理学療法科学の専門知識と技術の修得
3. 保健・医療・福祉分野における多職種連携の理解と、理学療法士として主体的に専門技術を提供できる能力の涵養
4. 社会の変化や科学技術の進展に合わせた持続する自己研鑽力の確立
5. 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力の涵養

① 幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の涵養

リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重し、患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材を育成する。また、臨床における医療者-患者間のコミュニケーションは、情報伝達や病歴聴取にとどまらず、医療者-患者間の信頼関係の構築と患者教育の動機付けの役割を担っている。患者への適切な情報提供能力、説明能力だけでなく、①支持的態度②共感的態度の習得を含めた医療コミュニケーション能力を涵養することをめざしている。

② 多職種連携の必要性を理解し、主体的に実践できる人材基盤の確立

チーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成する全ての医療職とその専門性、そのチームの持つ機能について十分な理解を有する能力を備えていることが強く求められている。自らの専門性とほかの関連職種との役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材を育成する。

③ 理学療法学科のめざす人材の育成 - 高い専門性とコミュニケーション能力を持ち、チーム医療を実践できる理学療法士の育成 -

- ・ 地域住民の健康増進の寄与を全面的に実践できる人材の育成
- ・ 身体機能の回復と生活活動の向上を目標とした理学療法を、チーム医療を通して提供できる人材の育成
- ・ 地域に根差した豊かで活力ある生活を営み、住民が生きていきと社会に参画できるようにサポートできる人材の育成
- ・ 医療従事者としての豊かな人間性、柔軟に対応できる行動力、新たな発想や探究心、豊かな創造性と建設性をもつ人材の育成

学位授与方針(ディプロマポリシー)

リハビリテーション科学部理学療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
2. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
3. 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
5. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
6. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション科学部理学療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって配当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた理学療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に配当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な理学療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を配当する。また、健康維持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、スポーツ障害予防等に対応できる科目も配当する。
4. 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を配当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
5. 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を配当する。
6. リハビリテーション専門職である理学療法士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。

7. 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部理学療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

#### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

リハビリテーション科学部理学療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる理学療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、理学療法士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人

#### \* 基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

#### 【作業療法学科】

##### 教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての作業療法士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念とする。

##### 教育目的

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉の向上に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域的および国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての作業療法士の養成を本学科の教育目的とする。

##### 教育目標

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 作業療法士に求められる幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の養成
2. 科学的根拠に基づく作業療法科学の専門知識と技術の修得
3. 保健・医療・福祉分野における多職種連携の理解と、作業療法士として主体的に専門技術を提供できる能力の涵養
4. 社会の変化や科学技術の進展に合わせた持続する自己研鑽力の確立
5. 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力の涵養

#### ① 幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の涵養

リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重し、患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材を育成する。また、臨床における医療者-患者間のコミュニケーションは、情報伝達や病歴聴取ことまらず、医療者-患者間の信頼関係の構築と患者教育の動機付けの役割を担っている。患者への適切な情報提供能力、説明能力だけでなく、①支持的態度②共感的態度の習得を含めた医療コミュニケーション能力を涵養することをめざしている。

#### ② 多職種連携の必要性を理解し、主体的に実践できる人材基盤の確立

チーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成する全ての医療職とその専門性、そのチームの持つ機能について十分な理解を有する能力を備えていることが強く求められている。自らの専門性とほかの関連職種との役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材を育成する。

#### ③ 作業療法学科のめざす人材の育成 - 作業行動学的アプローチの技術と福祉マインドを持つ作業療法士の育成 -

- ・ 豊かな人生をおくるための支援を可能にする人材の育成
- ・ 自らの専門性と他の関連職種の役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材の育成
- ・ 患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材の育成
- ・ 住環境・人的環境・地域環境を整え、支援の枠組みを明確にし、支援コーディネーターとしての役割を認知し、その力を発揮できる人材の育成

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

リハビリテーション科学部作業療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
2. 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
3. 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
4. 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
5. 国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
6. 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および作業療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション科学部作業療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって配当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた作業療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に配当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な作業療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を配当する。また、健康維

持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、職業復帰の見地から就業支援等に対応できる科目も配当する。

- 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を配当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
- 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を配当する。
- リハビリテーション専門職である作業療法士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。
- 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部作業療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

#### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

リハビリテーション科学部作業療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる作業療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

- 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人
- 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
- 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
- 保健・医療・福祉に関心があり、作業療法士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人
- 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人

#### \*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会科学科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

#### 【言語聴覚療法学科】

##### 教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を有するリハビリテーション専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識の開発および教授に留まらず、保健・医療・福祉の連携と統合を意識した包括的な視点を有する専門職業人としての言語聴覚士を養成することにより、人々の健康、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念とする。

##### 教育目的

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念に沿って、豊かな人間性と確固たる職業倫理観を身につけ、人々の健康と保健・福祉に寄与するとともに、人々が暮らす生活に根差した地域のおよび国際的視野から医療の向上に貢献できるリハビリテーションのコアスタッフとしての言語聴覚士の養成を本学科の教育目的とする。

##### 教育目標

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

- 言語聴覚士に求められる幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の養成
- 科学的根拠に基づく言語聴覚療法科学の専門知識と技術の修得
- 保健・医療・福祉分野における多職種連携の理解と、言語聴覚士として主体的に専門技術を提供できる能力の涵養
- 社会の変化や科学技術の進展に合わせて持続する自己研鑽力の確立
- 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力の涵養

#### ① 幅広い教養、豊かな感性、高い倫理観とコミュニケーション能力の涵養

リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重し、患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材を育成する。また、臨床における医療者-患者間のコミュニケーションは、情報伝達や病歴聴取にとどまらず、医療者-患者間の信頼関係の構築と患者教育の動機付けの役割を担っている。患者への適切な情報提供能力、説明能力だけでなく、①支持的態度②共感的態度の習得を含めた医療コミュニケーション能力を涵養することをめざしている。

#### ② 多職種連携の必要性を理解し、主体的に実践できる人材基盤の確立

チーム医療を構成する医療職には、自らの専門領域のみならずチームを構成する全ての医療職とその専門性、そのチームの持つ機能について十分な理解を有する能力を備えていることが強く求められている。自らの専門性とほかの関連職種の役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材を育成する。

#### ③ 言語聴覚療法学科のめざす人材の育成 - 高い臨床能力を持ち、言語聴覚機能障害を持つ患者が抱える問題に共感できる言語聴覚士の育成 -

- 患者や家族の悩みや苦しみに共感できる豊かな人間性と幅広い知識や教養を持つ人間力のある人材の育成
- 言語、聴覚障害に対し、豊かな人間性、柔軟な行動力、思慮のあるコミュニケーション力の基に、専門性の高い実践的な対処ができる人材の育成
- 社会の変化、医療技術の進展に合わせて、これまでに修得した専門的な知識・技能を検証し、自己研鑽できる人材の育成
- 医療従事者の一人として、自らの専門性と関連する他の専門職種の役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる人材の育成

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。

- 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。
- 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。
- 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
- 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。
- 国際的および地域の視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。
- 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. リハビリテーション専門職としてふさわしい豊かな人間性の形成、コミュニケーション力の向上を目的に、全学教育科目を1年次から3年次にわたって配当する。
2. 1年次から2年次にかけては、科学的根拠に基づいた言語聴覚療法技術を実践するうえで理論的基盤となる専門基礎科目を中心に配当する。
3. 3年次以降は、多様な障害に対して適切な言語聴覚療法を実践するために必要な治療ならびに支援技術を学ぶ科目を配当する。また、健康維持・増進の見地から、生活習慣病予防や介護予防、職業復帰の見地から就業支援等に対応できる科目も配当する。
4. 3年次から4年次にかけては、研究法や研究セミナーの科目を配当し、社会の変化や科学技術の進展に合わせて、生涯にわたり自己研鑽していく態度を修得させる。
5. 保健・医療・福祉の分野において、関係職種と連携するための協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携に関する実践的な科目を配当する。
6. リハビリテーション専門職である言語聴覚士としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させ、臨床実践能力を涵養するために、学外での臨床実習を各学年で段階的に展開する。
7. 各授業科目の学修成果は、シラバスに明示された学修目標に対する教員よりの評価および学生アンケートなどの結果から達成状況を評価する。また、1年次における教養や基礎、2年次における臨床への指向、3年次における各専門領域の学修、4年次での総合的実践的能力の獲得といった各段階に応じた学修成果に加え、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科所定の教育課程における卒業要件への達成状況を単位取得状況やGPAにより評価する。

#### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科では、学位授与の方針の要件を修得し、社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる言語聴覚療法専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力\*を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、言語聴覚士として地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという強い目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、探求心を持ち、自己を磨く意欲を持っている人

\*基礎学力について

高等学校等で修得する英語、数学、国語を基盤とし、生体の構造や機能を理解するための生物、化学、物理、および大学におけるリベラルアーツ教育の基盤となる社会系科目について1科目以上修得し身につけている学力をさします。

#### ● リハビリテーション科学部カリキュラムの特色

- ① リハビリテーション従事者としてふさわしい豊かな人間性の形成と専門教育の基礎となる全学教育科目を幅広く学べるよう科目を配置している。
- ② 1年次から専門教育科目を配当することで、早期から理学療法・作業療法・言語聴覚療法分野に対する動機付けを図っている。
- ③ 専門教育科目については、科学的根拠に基づいて理学療法・作業療法・言語聴覚療法の技術を実践できる能力を身につけるために、その理論的基盤となる専門基礎科目から理学療法・作業療法・言語聴覚療法の治療技術に関する専門科目へと体系的に学習できるよう配置している。
- ④ 多様な障害に対して適切な理学療法・作業療法・言語聴覚療法を実践できる能力を身につけるために、様々な治療技術を学べる科目を設定している。
- ⑤ 保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーションサービスに携わる様々な専門職種と連携できる協調的実践能力を養うために、多職種連携、地域連携等の実践的な演習科目を設けている。
- ⑥ 社会の変化や科学技術の進展に合わせて常に自らの専門技術を精進し、生涯にわたり研鑽していく態度を身につけるために、3年次から研究法、セミナーの科目を配置している。
- ⑦ リハビリテーション従事者としての態度、資質、行動を育成するとともに、学内教育で修得した知識と技術を統合させた実践能力を涵養するために、早期から学外での臨床実習を配置し、各年次での学習レベルに対応させて4年間にわたり段階的に展開する。

● 理学療法学科カリキュラムの特色

1. 1年次には医療人に必要な人間性を育てる全学教育科目を主として履修するが、並行して専門教育科目を履修することで、早期に専門分野に対する動機付けを図れるように配慮している。
2. 専門教育科目は、1年次に基礎医学系科目、2年次に臨床医学系科目と理学療法評価・基礎治療学系科目、3年次に各種障害に対する理学療法治療学系科目、そして3年次後期から4年次にかけて理学療法総合実習を配置し、体系的に学習できるように編成している。

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	英語A 情報処理演習 生命科学 英語コミュニケーションA 選択科目群 医療倫理 コミュニケーション実践論 日本語の表現(選) 多職種連携入門	基礎統計学 選択科目群 医療コミュニケーション		
DP2	社会保障制度論		多職種連携論	理学療法管理・運営論
DP3	リハビリテーション概論	障がい当事者論 リハビリテーション医学 日常生活動作学Ⅰ・Ⅱ	積雪寒冷地の生活と諸問題 地域包括ケア論(選) 地域理学療法学 生活環境論 地域理学療法学演習	臨床実習Ⅳ/V(総合臨床実習/地域ケア実習)
DP4	心理学 物理学 基礎数理 運動科学演習Ⅰ・Ⅱ 選択科目群 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論 人間発達学 公衆衛生学 医療数学入門 医療物理入門 医療生物入門 理学療法概論	病理学 整形外科学 内科学 神経学 小児科学 精神医学Ⅰ 薬理学 臨床心理学 栄養学 選択科目群 理学療法基礎評価学Ⅰ・Ⅱ 運動療法Ⅰ・Ⅱ 義肢装具学Ⅰ 解剖学実習	画像評価学 物理療法学 義肢装具学Ⅱ 骨関節障害理学療法学 神経障害理学療法学 発達障害理学療法学 内部障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ	理学療法総合講義 選択科目群
DP5	生理学実習	運動学実習	理学療法研究セミナーⅠ 理学療法研究法 骨関節障害理学療法学演習 神経障害理学療法学演習 発達障害理学療法学演習 内部障害理学療法学演習	理学療法研究セミナーⅡ
	全学教育科目(教養/健康・運動科学/外国語/情報科学/自然科学)	全学教育科目(導入/医療基礎)	リハビリテーション基礎科目	理学療法専門科目
				実習/演習系科目

● 作業療法学科カリキュラムの特色

1. 医療人としての教養習得や役割の理解を促す。
2. 基礎・専門科目においての高度・先進知識や技術(人の構造や機能の側面、能力的な側面、意味的な側面)の習得を促す。
3. 専門科目において、双方向の授業形態(グループワーク等)を通して、コミュニケーション能力、主体性及び協調性を培う機会の提供を行い、そこから生み出される成果を促す。
4. 段階的に学内で学んだ知識・技術や態度を、実践の場での経験を通して統合できる臨床実習の提供。

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	英語A 情報処理演習 生命科学 英語コミュニケーションA 選択科目群 医療倫理 コミュニケーション実践論 日本語の表現(選) 多職種連携入門	基礎統計学 選択科目群		
DP2	社会保障制度論		多職種連携論	職業倫理・管理学
DP3	リハビリテーション概論	障がい当事者論 リハビリテーション医学	地域包括ケア論(選) 積雪寒冷地の生活と諸問題 地域作業療法学 地域作業療法学演習	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ
DP4	心理学 生物学 基礎数理 運動科学演習Ⅰ・Ⅱ 選択科目群 解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ・Ⅱ 医学概論 人間発達学 公衆衛生学 医療数学入門 医療物理入門 医療生物入門 作業療法概論 作業療法技術学演習Ⅰ	病理学 整形外科学 内科学 神経学 高次脳機能障害学 小児科学 薬理学 臨床心理学 栄養学 選択科目群 評価学概論 身体機能評価学Ⅰ・Ⅱ 精神系評価学 発達障害作業療法学 日常生活援助学Ⅰ 発達系評価学 解剖学実習 作業療法技術学演習Ⅱ 評価学実習 作業適用学演習	画像評価学 日常生活援助学Ⅱ 身体障害作業療法学 義肢装具学 精神障害作業療法学 就業援助論 老年期障害作業療法学Ⅰ・Ⅱ 高次脳機能障害作業療法学 呼吸リハビリテーション学 ハンドセラピー 選択科目群 言語聴覚セミナーⅠ 高次脳機能障害作業療法学演習 精神障害作業療法学実習 身体障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ 発達障害作業療法学演習 音楽療法士コース限定必修科目群	作業療法総合講義
DP5	生理学実習	運動学実習	作業療法研究法 作業療法研究セミナーⅠ	作業療法研究セミナーⅡ
	全学教育科目(教養/健康・運動科学/外国語/情報科学/自然科学)	全学教育科目(導入/医療基礎)	リハビリテーション基礎科目	作業療法専門科目
				実習/演習系科目
				音楽療法士コース科目



● 言語聴覚療法学科カリキュラムの特色

- 1年次は、他者とのかかわりにおける専門性の理解のため、自己認識、他者・組織・社会的ルール等にかかわる科目を配当する。さらに社会のグローバル化・情報化の時代への対応を可能とする科目を配当する。
- 1年次から2年次にかけては、医科学、言語科学、心理学の履修を通し、専門教育科目につながる基本的な学び、特に身体科学と対応することにより、科学的なものの見方を養成する。
- 2年次以降は専門教育科目の体系化・構造化を図り、科目の履修目的が明確となるコミュニケーション障害に関する専門領域の理解・深化を目的とした科目を配当する。
- 3年次は、言語聴覚障害の基本的援助技術を学び、専門職業人としての自覚を促す。
- 4年次は、臨床実習などを通して臨床実践力を高める。
- 近年の生物科学、情報科学の動向を理解し、技術の修得が可能な関連科目を配当する。
- コミュニケーションの問題にかかわる言語聴覚学関連、医療関連の科目を配当する。

	1年次	2年次	3年次	4年次
DP1	英語A 情報処理演習 基礎統計学 英語コミュニケーションA 生命科学 選択科目群 医療倫理 コミュニケーション実践論 日本語の表現 多職種連携入門	選択科目群		
DP2		医学総論	多職種連携論 社会保制度論	臨床実習 (総合実習)
DP3	リハビリテーション概論		地域包括ケア演習(選) 言語聴覚学総論Ⅲ	
DP4	運動科学演習Ⅰ・Ⅱ 選択科目群 言語聴覚障害学概論 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 言語学 音声言語聴覚医学 音声学 音響学 認知心理学 学習心理学 発達心理学	言語聴覚診断学総論 内科学 病理学 形成外科学 神経学 言語発達学 関係法規 心理測定法 臨床心理学 精神医学 耳鼻咽喉科学 歯科学総論 リハビリテーション医学 口腔外科学 小児科学 選択科目群	言語聴覚学総論Ⅰ・Ⅱ 高次脳機能障害学 言語発達障害学Ⅱ 聴覚障害学Ⅱ 失語症学演習Ⅰ・Ⅱ 言語発達障害学演習 発声発語障害学演習Ⅰ・Ⅱ	選択科目群
DP5			選択科目群 言語聴覚セミナーⅠ 選択科目群	言語聴覚学総論Ⅵ(選) 選択科目群

全学教育科目 (教養/健康・運動科学/外国語/情報科学/自然科学)
全学教育科目 (導入/医療基礎)
言語聴覚学総合教育科目
言語聴覚学基礎教育科目
言語聴覚障害学教育専門科目
実習/演習系科目

※DP(学位授与の方針:ディプロマ・ポリシー)については、共通としており、以下のとおりである。

DP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。
DP2	近代医療は”チーム医療”がとても重要です。各医療職の専門性はますます進化していきますので、今後さらに”チーム医療力”が病院・施設などの”臨床力”として特に重要になります。自分の職種と他の職種のそれぞれの役割と専門性をきちんと理解し、患者と家族をチーム医療力でしっかりとサポートできる能力を身につけます。
DP3	医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気がけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って言語聴覚療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。
DP4	リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。
DP5	世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに言語聴覚療法学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追究していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。



理学療法学科 全学教育科目

区分	授業科目	単位数		開講年次・時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
導入科目	基礎ゼミナール	2		30										
	文章指導		2	30										
教養科目	人間と思想		2	30										
			2	30										
	人間と文化		2	30										
			2	30										
	人間と社会		2	30										
			2	30										
健康・運動科学科目	健康・運動科学演習	1		30										
外国語科目	英語 I	1		30										
	英語 II	1	1		30									
	初修外国語		1				30							
			1				30							
情報科学科目	情報処理演習	1		30										
自然科学科目	自然科学入門		2		30									
			2		30									
			2		30									
			2		30									
医療基盤科目	多職種連携	2		30										
	多職種連携	1						30						
	医療倫理	2		30										
	地域連携	2								30				

全学教育科目 合計28単位以上修得(うち必修18単位)

理学療法学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数		開講年次・時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
リハビリテーション基礎科目	解剖学 I	1		30											
	解剖学 II	1			30										
	解剖学実習	2				90									
	生理学 I	1		30											
	生理学 II	1			30										
	生理学実習	1			45										
	運動学 I	1		30											
	運動学 II	1			30										
	運動学実習	1				45									
	人間発達学	2			30										
	医学概論	1		15											
	病理学	2				30									
	整形外科学	3				45									
	内科学	3					45								
	神経学	3					45								
	高次脳機能障害学	1					15								
	小児科学	2				30									
	精神医学 I	2				30									
	精神医学 II	2	2				30								
	リハビリテーション医学	2					30								
	臨床心理学	1					15								
	薬理学	1					15								
	公衆衛生学	1				15									
	栄養学	1					15								
	リハビリテーション概論	2		30											
	社会保障制度論	1			15										
	障がい者当事者論	1				30									
	積雪寒冷地の生活と諸問題	1						30							
	医療数学入門	1		15											
	医療物理入門	1		15											
	医療生物入門	1		15											
	理学療法専門科目	理学療法概論	2		30										
		理学療法管理・運営論	1										15		
理学療法研究法		2							30						
医療コミュニケーション		1						30							
理学療法基礎評価学 I		2					60								
理学療法基礎評価学 II		2					60								
画像評価学		1								15					
物理療法学		2							60						
運動療法学 I		1					30								
運動療法学 II		1						30							
義肢装具学 I		1						30							
義肢装具学 II		1							45						
日常生活動作学 I		1					30								
日常生活動作学 II		1						30							
骨関節障害理学療法学		3							45						
骨関節障害理学療法学演習		2								60					
神経障害理学療法学		3								45					
神経障害理学療法学演習		2									60				
脊髄障害理学療法学		2							30						
脊髄障害理学療法学演習		2									60				
内部障害理学療法学 I		2							30						
内部障害理学療法学 II		1								15					
内部障害理学療法学演習		2									60				
理学療法特講 I (徒手療法論)		1										30			
理学療法特講 II (ニューロリハビリテーション)		1										30			
理学療法特講 III (スポーツ障害)		1										30			
理学療法特講 IV (急性期内部障害)		1										30			
理学療法特講 V (超音波画像解析)		1										30			
国際協力と理学療法		1											15		
地域理学療法学		2								30					
地域理学療法学演習		1									30				
生活環境論		1	1								15				
臨床実習 I		1			45										
臨床実習 II		2							90						
臨床実習 III		7										315			
臨床実習 IV		8											360		
臨床実習 V		2											90		
理学療法総合講義		1											30		
理学療法研究セミナー I		2								60					
理学療法研究セミナー II		2											60		

専門教育科目 104単位以上修得  
理学療法学科 合計132単位以上(必修122単位、選択10単位以上)修得

作業療法学科 全学教育科目

区分	授業科目	単位数		開講年次・時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
導入科目	基礎ゼミナール	2		30											
	文章指導		2	30											
教養科目	人間と思想		2		30									2単位以上修得	
	人間と文化		2		30									2単位以上修得	
	人間と社会			2		30									
				2		30									
				2		30									
				2		30									
健康・運動科学科目	健康・運動科学演習	1			30										
外国語科目	英語 I		1			30								4単位以上修得	
	英語 II		1			30									
	初修外国語			1				30							
				1				30							
				1				30							
情報科学科目	情報処理演習	1		30											
	統計学	2				30									
自然科学科目	自然科学入門		2		30									6単位以上修得	
			2		30										
			2		30										
			2		30										
医療基礎科目	多職種連携	2		30											
	多職種連携	1							30						
	医療倫理	2		30											
	地域連携	2		30						30					

全学教育科目 合計28単位以上修得(うち必修20単位)

作業療法学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数		開講年次・時間数								備考			
				1年		2年		3年		4年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
リハビリテーション基礎科目	解剖学 I		1		30										
	解剖学 II		1		30										
	解剖学実習		2				90								
	生理学 I		1		30										
	生理学 II		1		30										
	生理学実習		1			45									
	運動学 I		1		30										
	運動学 II		1		30										
	運動学実習		1				45								
	人間発達学		2		30										
	医学概論		1		15										
	病理学		2			30									
	整形外科学		3			45									
	内科学		3				45								
	神経学		3				45								
	高次脳機能障害学		1				15								
	小児科学		2			30									
	精神医学 I		2			30									
	精神医学 II		2			30									
	リハビリテーション医学		2			30									
	臨床心理学		1			15									
	薬理学		1			15									
	公衆衛生学		1			15									
	栄養学		1			15									
	リハビリテーション概論		2		30										
	社会医療制度論		1		15										
	障がい者当事者論		1			30									
	積雪寒冷地の生活と諸問題		1						30						
	医療数学入門		1		15										
	医療物理入門		1		15										
	医療生物入門		1		15										
	作業療法専門科目	作業療法概論		2		30									
		職業倫理・管理学		1										15	
作業療法技術学演習 I			1		30										
作業療法技術学演習 II			1				30								
作業療法研究法			1						15						
評価学概論			1				15								
身体機能評価学 I			2			60									
身体機能評価学 II			1				30								
画像評価学			1							15					
精神系評価学			1				30								
発達系評価学			1			30									
評価学実習			2				90								
日常生活援助学 I			1				30								
日常生活援助学 II			1						30						
身体障害作業療法学			1							60					
身体障害作業療法学実習 I			2							45					
身体障害作業療法学実習 II			1							45	45				
精神障害作業療法学			2							60					
精神障害作業療法学実習			1							45	45				
発達障害作業療法学			1					30							
発達障害作業療法学演習			1						30						
老年期障害作業療法学 I			1							30					
老年期障害作業療法学 II			1							30	30				
高次脳機能障害作業療法学			1							15					
高次脳機能障害作業療法学演習			1							30					
義肢装具学			1							30					
作業適用学演習			1						30						
音楽療法				1							15				
音楽療法各論				1							15				
ハンドセラピー				1							15				
呼吸リハビリテーション学				1							15				
地域作業療法学				2							30				
地域作業療法学演習				1							30				
就業後助論				1							15				
臨床実習				1		45									
評価実習				5							225				
総合臨床実習 I				8								360			
総合臨床実習 II				8								360			
作業療法学総合講義				1									30		
作業療法研究セミナー I				2							60				
作業療法研究セミナー II				2									60		
専門教育科目 合計 作業療法学科106単位以上修得 作業療法学科 合計134単位以上(必修126単位、選択8単位)															
音楽療法士コース科目	音楽理論		2		30										
	ソルフェージュ		2			60									
	器楽(鍵盤)		2			60									
	器楽(弦)		2				60								
	伴奏法		2				60								
	合唱		2						60						
	アンサンブル		2							60					
	即興演奏		2										60		
	教育相談(カウンセリング)		1											15	
	音楽療法各論 II			2							30				
	音楽療法総合演習			3										90	
	音楽療法士コース履修者は、専門教育科目 合計 128単位(作業療法学科106単位以上+音楽療法士コース科目22単位)以上修得 音楽療法士コース 合計158単位(必修148単位、選択10単位)以上修得														

言語聴覚療法学科 全学教育科目

区分	授業科目	単位数		開講年次・時間数								備考			
		必修	選択	1年		2年		3年		4年					
全学教育科目	導入科目	基礎ゼミナール	2		30										
		文章指導		2		30									
	教養科目	人間と思想		2		30									
				2		30									
		人間と文化		2		30									
				2		30									
		人間と社会		2		30									
				2		30									
	健康・運動科学科目	健康・運動科学演習	1		30										
	外国語科目	英語 I	1	1		30									
		英語 II	1			30			30						
		初修外国語		1					30						
				1					30						
	情報科学科目	情報処理演習	1			30									
		統計学	2			30									
	自然科学科目	自然科学入門		2		30									
				2		30									
				2		30									
				2		30									
	医療基盤科目	多職種連携	1						30						
		医療倫理	2			30									
		地域連携	2						30						
	全学教育科目 合計27単位以上修得(うち必修16単位)														

言語聴覚療法学科 専門教育科目

区分	授業科目	単位数		開講年次・時間数								備考	
		必修	選択	1年		2年		3年		4年			
言語聴覚学総合教育	言語聴覚障害学概論	2			30								
	言語聴覚診断学総論	1				15							
	言語聴覚学総論 I	2						30					
	言語聴覚学総論 II	1						15					
	言語聴覚学総論 III	1						15					
	言語聴覚学総論 IV		4							60			
	言語聴覚学総論 V		4								60		
言語聴覚学総論 VI		2									30		
言語聴覚学基盤教育	医療生物入門		1		15								
	解剖生理学 I	2			60								
	解剖生理学 II	2				60							
	解剖生理学 III		2				30						
	音声言語聴覚医学	3			45								
	医学総論	1					15						
	公衆衛生学		2				30						
	病理学	1					15						
	内科学	2					30						
	小児科学	1.5					23						
	耳鼻咽喉科学	2					30						
	形成外科学	1					15						
	精神医学	2					30						
	神経学	2					30						
	リハビリテーション医学	2						30					
	歯科学総論	1						15					
	口腔外科学	1						15					
	音声学	2			30								
	言語学	2.5				38							
	音響学	3				45							
	言語発達学	2					30						
	日本語学		2				30						
	心理言語学		2					30					
	認知心理学	1.5			23								
	学習心理学	1.5				23							
	発達心理学	1.5				23							
	生理心理学		1.5				23						
臨床心理学	1.5					23							
心理測定法	1.5					23							
リハビリテーション概論	2			30									
関係法規	1					15							
社会保障制度論	1						15						
英語論文講読		1.5						23					
言語聴覚障害学教育	失語症学 I	1				15							
	失語症学 II	1.5					23						
	高次脳機能障害学	1.5						23					
	言語発達障害学 I	2					30						
	言語発達障害学 II	2						30					
	発声発語障害学 I	2.5						38					
	発声発語障害学 II	2						30					
	摂食嚥下障害学	2						30					
	聴覚障害学 I	2						30					
	聴覚障害学 II	2							30				
	失語症学演習 I	1							30				
	失語症学演習 II	1							30				
	高次脳機能障害学演習	1							30				
	言語発達障害学演習	2							60				
	発声発語障害学演習 I	1							30				
	発声発語障害学演習 II	2							60				
	摂食嚥下障害学演習	1							30				
	聴覚障害学演習 I	1.5						45					
	聴覚障害学演習 II	1.5							45				
	基礎実習	4								180			
	総合実習	8									360		
	研究法		1							30			
言語聴覚ゼミナール I	1								30				
言語聴覚ゼミナール II		1								30			
卒業研究		1									30		
専門教育科目100単位以上修得													
言語聴覚療法学科 合計127単位以上修得(必修111単位・選択16単位以上)													

## (6) 医療技術学部(臨床検査学科)

医療技術学部臨床検査学科は、2019年4月、北海道・東北で初の臨床検査技師を養成する4年制私立大学として誕生した。医療現場は高度化・複雑化してきており、幅広い知識とすぐれた技術を備えた人材が必要とされている。精確な検査データを測定し迅速に提供する臨床検査技師は、チーム医療の一員として重要な存在であり、知識・技能の修得のみにとどまらず、患者や他職種と円滑に関係性を築けるコミュニケーション能力や、医療の進歩、医療形態の変化に柔軟に対応している自己研鑽の能力や意欲を備えた、高度な専門職能人育成をめざしている。

### 医療技術学部 教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を基盤とした臨床検査の専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識と技術の開発・教授に留まらず、「考える力」を駆使する課題解決能力に秀でた人材の養成と、また、保健・医療・福祉の連携・統合を意識し、広い視野を備えた専門職業人の養成により、地域・国際社会ならびに人類の健康と幸福に貢献することを医療技術学部臨床検査学科の教育理念とする。

医療の高度化、チーム医療の推進、検査機器の小型化などの技術進歩に伴い、臨床検査技師という職種においても高度専門化が進み、また知識・技能だけでなく、他職種や患者との円滑なコミュニケーションができる新しい臨床検査技師が求められている。

本学では、すでに薬剤師、歯科医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士など、さまざまな医療の担い手を育成しており、これからのさまざまな場での多職種連携を強化するべく、臨床検査技師の養成を行う。

臨床検査は、検査データという客観的な情報を提供し、科学的根拠に基づいた医療を行うために不可欠であり、そうした情報を正確に取得するための精度管理能力、高度化する機器や技術を理解し高めていく自己研鑽能力、課題を見つけ自分で解決していきける能力を身につけた、高度専門職業人としての臨床検査技師を養成する。

### 医療技術学部 教育目的

医療技術学部臨床検査学科の教育理念に沿って、最先端の科学的知識を基盤とする専門知識と技術に裏打ちされた課題解決能力を身につけ、確固たる倫理観と専門性に基づいて保健・医療・福祉の分野で社会に貢献できる専門職業人としての臨床検査技師の養成を本学科の教育目的とする。

### 医療技術学部 教育目標

医療技術学部臨床検査学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 医療人としての豊かな人間性と高い倫理観の涵養
2. 高い専門知識と技術の修得
3. 生涯にわたり自ら研鑽し向上する意欲の涵養
4. チーム医療の一員として協調性を持って職責を果たす能力の修得
5. 問題提起と解決能力の涵養

## 【学科の特色】

### ①先進医療知識と技術による教育

基礎的な知識・技能はもとより、実際の医療現場で用いられている検査技術および先進医療を見据えた新たな検査技術に対応する知識・技能が必要であり、高精度な超音波画像解析装置や自動分析機器、がん細胞などの形態学的判定能力を効率的に養うためのバーチャルスライドシステム、ゲノム医療や個別化医療、再生医療等を見据えた遺伝子解析装置、質量分析装置、細胞培養設備等を整備している。

学内実習、卒業研究、アドバンス科目でそれら機器を積極的に学生に使用させることにより、臨床検査に対する科学的視点と問題解決能力を実践的に教授する。

### ②チーム医療、在宅医療を推進する実践教育

医療の地域格差や高齢化によって、地域医療や在宅医療の重要性は今後さらに増加すると考えられ、本学部では、在宅医療の基本的理解と臨床検査の必要性について、在宅医療を専門とする看護福祉学部教員との連携図り、実践的に教授する。また、チーム医療の重要性を早期に理解し、自らの専門性と他の医療職種の役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる臨床検査技師を育成するため、1年次には「多職種連携(多職種連携入門)」、2～3年次には「保健医療福祉演習」「チーム医療・コミュニケーション演習」「医療マネジメント演習」を配置し、チーム医療の中心である患者の理解とコミュニケーションの方法、患者と接する際のリスクマネジメントに関する知識と実技を修得させる。

### ③患者への思いやりと確かな倫理観を培う教育

患者の身体的・心理的状态を理解し良好な関係性を築けるコミュニケーション能力や倫理観を持った臨床検査技師を育成するため、対人援助や傾聴といった心理学に基づいた知識を教授する。認知症、身体障害、発達障害や精神障害を持つ患者への理解を模擬体験によって促し、臨床検査技師教育では珍しい福祉施設での体験実習を取り入れ、患者の気持ちに共感できる豊かな人間性を培う教育を実践する。

### ④新たな分野で臨床検査技師の能力を活かす教育

大学での4年制教育により、研究・教育能力を併せ持つ高度専門職としての臨床検査技師を育成することができ、臨床検査技師の国家試験受験資格のほか、食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格、健康食品管理士の受験資格などを得ることができ、病院の検査室だけではなく、試薬・製薬メーカー、検査センター、研究職や行政機関への就職など、進路の選択肢は広がっている。

<p><b>学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)</b></p> <p>医療技術学部臨床検査学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。</li> <li>2. 臨床検査に必要な知識と技術を修得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。</li> <li>3. 保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。</li> <li>4. 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。</li> <li>5. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。</li> <li>6. 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。</li> </ol>
<p><b>教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)</b></p> <p>医療技術学部臨床検査学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年次には、医療人としての豊かな人間性と幅広い教養を養う全学教育科目、さらに、チーム医療に求められるコミュニケーション能力を養い、多職種連携に関する理解を深めることを目的とした全学部学生が合同でおこなう科目を配当する。また、人体の構造や機能を学ぶ基礎医学科目や早期に臨床検査分野に対する動機付けを図るための臨床検査学の基礎に関する専門科目を配当する。</li> <li>2. 2年次には、臨床検査に対する理解を深め、専門知識を豊富にすることを目的とした臨床検査学の講義および実習科目を配当する。</li> <li>3. 3年次には、臨床検査技師に必要な技術を修得することを目的とした臨床検査学および関連する実習科目、さらに医療現場での臨床検査に関する知識を深め、臨床検査技師としての自覚を培うことを目的とした臨床実習を配当する。また、臨床の現場で実際に臨床検査技師が関わるチーム医療や在宅医療の理解、患者への接遇、リスクマネジメントの重要性を学ぶことを目的とした科目を配当する。</li> <li>4. 4年次には、研究を通して、科学的な思考による問題解決能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とした卒業研究を配当する。さらに、創造性、思考力、生涯にわたり自己研鑽する意欲を備え、指導的役割や教育・研究を担う臨床検査技師としての能力、同時に、先進・高度化する医療に対応できる能力を養うことを目的とした科目を配当する。</li> <li>5. 国際的な視野で活躍できる力の育成に向けて、1年次～4年次にわたって英語の科目、そして1年次に初修外国語(ドイツ語、中国語、ロシア語)を配当し、さらに、英米哲学の問題理解(人間と思想)、グローバルな観点からの自然環境・社会経済の変化と感染症(医療社会史)、欧米の医療保険制度(医療の経済学)などの異文化理解に関する科目を配当する。</li> <li>6. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、実技試験、ルーブリックを用いたレポート評価などを適宜実施する。</li> </ol>
<p><b>入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)</b></p> <p>医療技術学部臨床検査学科では、学位授与の方針の要件を修得し、医療社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる臨床検査専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人</li> <li>2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人</li> <li>3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人</li> <li>4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っている人</li> <li>5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っている人</li> </ol> <p>*基礎学力について 医療技術学部臨床検査学科では、入学後、専門科目の基礎として、生体成分の化学的特性やその測定のための化学反応を理解するための化学、検査結果の妥当性を評価するための数学・統計学、生体情報の取得のための音や電気の特性を理解するための物理学、病気による生体成分や生体情報の変化を理解するための生理学・生化学・病理学などの科目があります。すなわち、高校で学習した数学、理科(化学、生物、物理)の知識や考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながります。 ここに示す「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることをさします。 ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。</p>

### 1)全学教育科目

全学共通の視点で提供された授業科目であり、教養教育・基礎教育・医療基盤教育の3群からなっている。「導入科目」「教養科目」「外国語科目」「健康・運動科学科目」「情報科学科目」「自然科学科目」「医療基盤科目」で構成され、必修科目17科目、選択科目13科目の合計30科目を配置している。

本学部の教育上の到達目標やディプロマ・ポリシーを踏まえて、多職種連携、チーム医療に必要な医療基盤教育科目、医学・科学の理解に必要な自然科学科目(物理学、化学、生命科学)、情報科学科目、導入科目を必修科目としている。

### 2)専門基礎科目

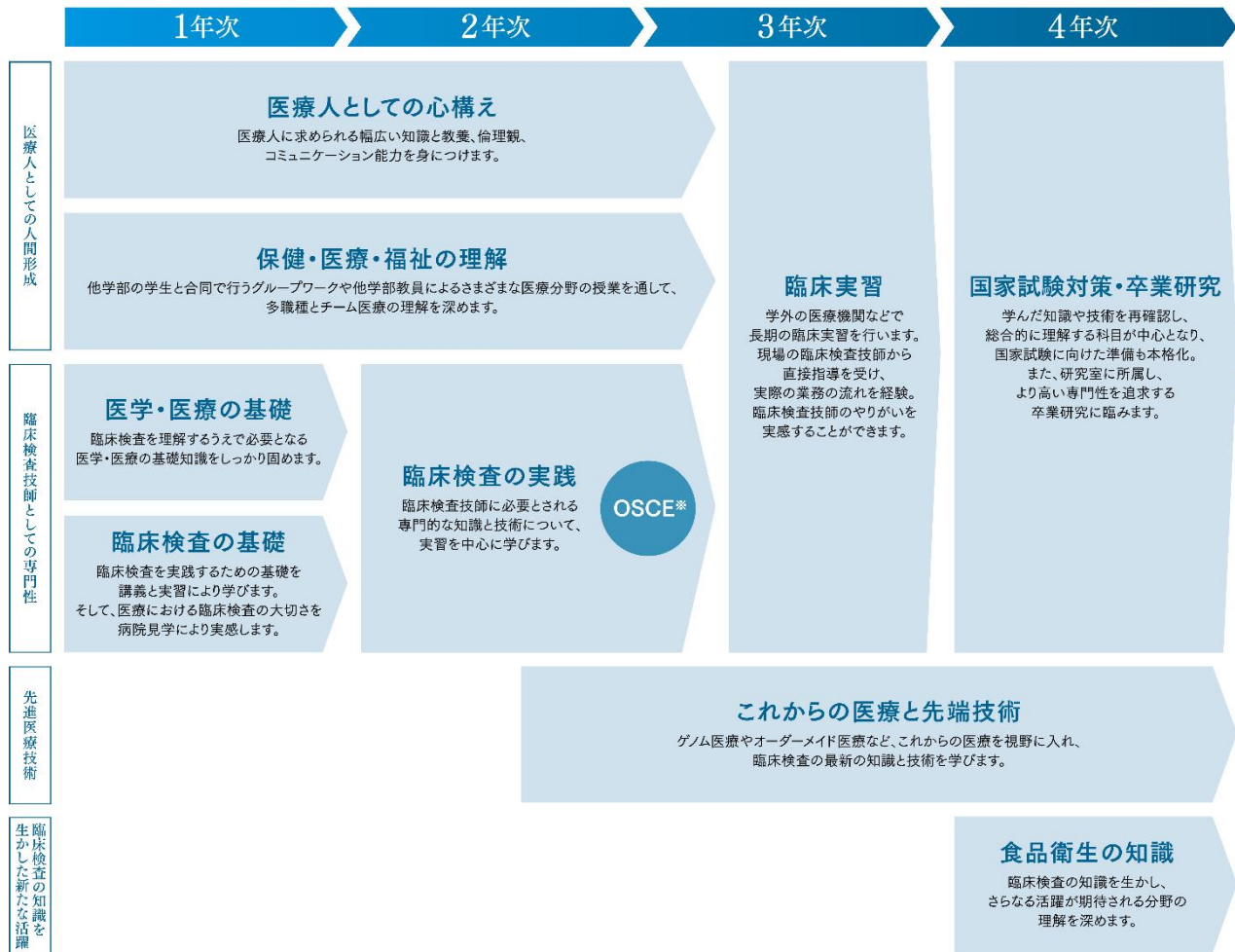
臨床検査技師に求められる知識・技術を修得するための科目であり、必修科目21科目からなる。①人体の構造と機能、②医学検査の基礎とその疾病との関連、③保健医療福祉と医学検査、④医療工学及び情報科学

### 3)専門科目

臨床検査技師として必要とされる知識と技術の習得を目的とした「臨床病態学」「臨床病理検査学」「遺伝子検査学」「臨床微生物学」「臨床生理学」「臨床検査管理学」「医療安全管理学演習」「臨床実習」などのほか、高度な医療への対応と科学的思考、問題解決能力を養うことを目的とした「卒業研究」で構成される。必修科目は50科目、選択科目は11科目の合計61科目となる。

# ▶ 臨床検査学科／履修カリキュラム

[4年間の学びの流れ]



※OSCE(Objective Structured Clinical Examination):「オスケー」とは、検査技能や患者さんとの接し方などを評価する実技テストのことです。

医療技術学部カリキュラム  
医療技術学部(臨床検査学科)  
全学教育科目

種類	科目区分	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考	
						1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養教育	導入科目	基礎ゼミナール	鈴木(一)ほか	1		30									
		文章指導	井上	1			15								
	教養科目	人間と思想	森元		2		30								
			磯部		2		30								
人間と文化		安部		2		30									
		花淵		2		30									
人間と社会	千葉(芳)		2		30										
基礎教育	外国語科目	英語Ⅰ	ターノフほか	1		30									
		ターノフほか		1		30									
		英語Ⅱ	*	1				30							
		*	1						30						
		英語Ⅲ	*	1								30			
		初修外国語	阿部		1		30								
	健康・運動科学科目	運動科学演習	阿部		1		30								
			阿部		1		30								
		情報科学科目	情報科学	オレーヤージュ		1		30							
			情報処理演習	オレーヤージュ		1		30							
			統計学	呉		1		30							
			*		1								30		
		自然科学科目	物理学	長谷川(敦)		2		30							
			化学	鈴木(喜)		2		30							
			生物学	近藤(朋)		2		30							
			自然科学入門	原田		1		15							
自然科学入門	鈴木(喜)			1		15									
自然科学入門	松尾			1		15									
教基医 育盤病	医療基盤科目	多職種連携	安部ほか	2		30									
		医療倫理	磯部	1		15									

全学教育科目 合計29単位以上修得(うち必修23単位)

専門教育科目

種類	科目区分	授業科目	担当	単位数		開講年次・時間数								備考
						1年		2年		3年		4年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	田中	1		30								
		解剖学Ⅱ	田中ほか	1		30								
		解剖学実習	*	1				45						
		生理学Ⅰ	幸村ほか	1		30								
		生理学Ⅱ	幸村	1		30								
		生理学実習	*	1				45						
		生化学Ⅰ	藏満	1		30								
		生化学Ⅱ	藏満	1		30								
	医学検査の基礎とその疾病との関連	生化学実習	*	1				45						
		医学概論	幸村ほか	1		30								
		病理学	藏満	1		30								
		薬理学	*	1					30					
		栄養学	*	1					30					
		臨床検査学入門Ⅰ	近藤(啓)ほか	1		30								
		臨床検査学入門Ⅱ	*	1				30						
		保健医療福祉と医学検査	公衆衛生学	和田	1		30							
	医療工学及び情報科学	公衆衛生学実習	*	1				45						
		関係法規	*	1								30		
		医療情報科学	*	1							30			
		医用工学概論	*	1				30						
	臨床病態学	医用工学実習	*	1					45					
		臨床病態学	臨床病態学Ⅰ	*	1			30						
			臨床病態学Ⅱ	*	1				30					
			臨床病態学Ⅲ	*	1				30					
臨床検査医学総論演習			*	1								30		
形態検査学		臨床血液学Ⅰ	*	1			30							
		臨床血液学Ⅱ	*	1				30						
		臨床血液学実習	*	2					90					
		臨床血液学演習	*	1								30		
		医療分子機能科学	*	1	1							30		
		臨床病態検査学	*	1			30							
		臨床細胞診断学	*	1				30						
	臨床細胞病理学実習	*	2					90						
生物化学分析検査学	臨床細胞病理学演習	*	1								30			
	分子細胞病理学	*	1	1							30			
	臨床化学Ⅰ	*	1			30								
	臨床化学Ⅱ	*	1				30							
	臨床化学実習	*	2					90						
	臨床化学演習	*	1								30			
	先進医療検査学	*	1	1							30			
	臨床検査学総論Ⅰ	吉田(繁)	1		30									
	臨床検査学総論Ⅱ	*	1			30								
	臨床検査学総論実習	*	2					90						
臨床検査学総論演習	*	1								30				
核医学概論	*	1					30							
遺伝子検査学	*	1					30							

専門科目		遺伝子検査学実習	*	1				45					
		遺伝子・染色体分析科学	*		1							30	
	病因・生体防御検査学	免疫検査学Ⅰ	*	1			30						
		免疫検査学Ⅱ	*	1				30					
		免疫検査学実習	*	2					90				
		免疫検査学演習	*	1								30	
		輸血・移植学演習	*	1							30		
		免疫細胞生物学	*		1								30
		微生物学	*	1				30					
		臨床微生物学	*	1						30			
		微生物学実習	*	2							90		
		臨床微生物学演習	*	1									30
		感染生物学	*		1								30
		医動物学	*	1				30					
		医動物学演習	*	1					30				
		食品衛生学	*		1								30
	生理機能検査学	臨床生理学Ⅰ	*	1			30						
		臨床生理学Ⅱ	*	1				30					
		臨床生理学実習	*	2						90			
		画像検査学	*	1						30			
		画像検査学演習	*	2							60		
		臨床生理学演習	*	1									30
		実践超音波検査学	*		1								30
	検査総合管理学	検査機器学	松尾ほか	1			30						
		基礎機器分析演習	山崎ほか	1			30						
		臨床検査管理学	*	1						30			
		保健医療福祉演習	*		1			30					
		チーム医療・コミュニケーション演習	*		1						30		
		医療リスクマネジメント演習	*		1							30	
		総合臨床検査学演習Ⅰ	*	1				30					
		総合臨床検査学演習Ⅱ	*	1								30	
		総合臨床検査学演習Ⅲ	*	4									120
	総合臨床検査技術演習	*	1								30		
	医療安全管理学	医療安全管理学演習	*	1								30	
	臨地実習	臨地実習	*	7						315			
	卒業研究	臨床検査研究セミナー	*	6								180	
	自由選択科目	健康食品学	*		1							30	自由選択科目
	専門教育科目 合計97単位以上修得(うち必修93単位)												